

昭和五十三年三月招集

第一回館山市議定会定例会會議錄第二号

館山市議會



目次

日時	.....	一
場所	.....	一
出席議員	.....	一
出席議員	.....	一
出席議員	.....	一
出席説明員	.....	一
出席事務局職員	.....	一
議事日程	.....	一
開議	.....	二
提案理由の追加説明・議案の訂正	.....	二
議長の報告	.....	二
行政一般通告質問	.....	二
石井 武敏君の質問、当局の応答	.....	三
渡辺軍治郎君の質問、当局の応答	.....	一四
黒川 平治君の質問、当局の応答	.....	二五
辻田 実君の質問、当局の応答	.....	三一
安西 益男君の質問、当局の応答	.....	四四
石井 輝久君の質問、当局の応答	.....	五三
発言の取り消し	.....	六七
会議日程の変更	.....	六七
散会	.....	六八
本日の会議に付した事件	.....	六八

一、昭和五十三年三月八日（水曜日）午前十時

二、館山市役所議場

一、出席議員 二十八名

一番 吉田 勇治郎	二番 伊藤 幸太郎
三番 矢野 寿夫	四番 押元 稔
五番 黒川 平治	六番 鈴木 正義
七番 本間 昭二	八番 松下 正己
九番 鈴木 稔	〇番 流山 源次郎
一番 近藤 好雄	二番 栗原 一雄
一三番 林 豊	一四番 石井 輝久
一五番 辻田 実	一六番 安西 益男
一七番 石井 武敏	一八番 渡辺 軍治郎
一九番 渡辺 昭夫	二〇番 和田 一郎
二二番 五十嵐 昇	二三番 菊井 敏博
二四番 西村 真次	二五番 伊賀 多朗
二六番 藤田 益治	二八番 石井 正
二九番 望月 照正	三〇番 山口 康
一、欠席議員 二名	
二一番 田中 禄郎	二七番 遠山 ヨネ子
一、出席説明員	
第一号 社会開発課長にかえて、社会開発課長補佐 脇田元始	
一、出席事務局職員	
第一号に同じ	

一、議事日程（第二号）

昭和五十三年三月八日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開

午前十時二分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十六名、これより第一回市議会定例会第二日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

提案理由の追加説明・議案の訂正

○議長（吉田勇治郎君） この際、お諮りいたします。

ただいま、市長から三月三日の本会議において行った議案の提案理由の説明に当たり、議案第二十六号昭和五十二年度館山市ユニスマスナル特別会計補正予算についての説明を落しましたのでいたしたいということ、及び議案第十六号館山市民生資金貸付条例を廃止する条例の制定について訂正いたしたいということであります。

これを許可するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、決しました。

説明を願います。

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） 三月三日定例会開会日に昭和五十三年度施政方針並びに提案理由につきまして御説明をいたしましたわけでございますが、議案第二十六号につきまして脱漏しましたので追加提案理由の説明をさせていただきます。

館山市ユニスマスナル特別会計補正予算第一号につきましては経営にかかわる款項の区分、当該区分ごとの金額の補正をお願いしようとするものであります。

なお、議案第十六号中、館山市民生資金貸付条例昭和四十五年条例第十二号とありますのは、昭和四十年条例第十二号の誤まりでございますので、訂正をお願いいたしたいと存ずるものでございます。

以上、提案理由を終ります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で説明は終わりました。

この際、申し上げます。お手元に配付の説明書を三月三日配付の施政方針一六ページの次に挿入されますようお願いいたします。

議長の報告

○議長（吉田勇治郎君） なお、社会開発課長欠席のため、藤田課長補佐が説明員として出席する旨の報告がありましたので、御了承願います。

行政一般通告質問

○議長（吉田勇治郎君） 本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

日程第一、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の三月六日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序は、お手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと

思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。

一七番議員石井武敏君。

(一七番議員石井武敏君登壇) (拍手)

〇一七番(石井武敏君) 私は、今市長の昭和五十三年度におきまして施政方針に關しまして数点お尋ねしたいと思ひます。

施政方針には次のように述べられております。「地方自治体を取り巻く諸情勢の中で迎える昭和五十三年度の地方財政は、なお厳しい状態が続くものと予想されますが、市民がこの時代に即応して何を弱むかを的確に把握し、財政の健全化を堅持しつつ限られた財源の重点的かつ効率的な運営を図りながら、次の項目を主要施策とし、積極的な予算を編成いたしました。」とあります。「すなわち、一、住みより環境づくり、二、福祉社会づくり、三、教育環境づくり、四、産業の基盤づくりであります。」と、このように述べられておりますが、私はこの施政方針で市長が強調してあります。市民がこの時代に即応して何を望むかを的確に把握する点、また、財政の健全化を堅持しながら限られた財源の重点的かつ効率的な運営を図るという点、これらの点に留意しつつ私は質問を行いたいと思ひます。

まず、住みよい環境づくりについての項の中に、公営住宅問題については次のように述べております。「公営住宅問題につきましては、住宅不足の緩和を図るため、特に低所得者層を対象として、公営住宅の建設のため一億二千五百万円を予算計上し、昭和

二十八年に建設、老朽化が著しい那古住宅十戸を二種中層耐火構造四階建一棟十六戸、うち四戸は福祉対策の一環として重度身体障害者のために建てかえることとし、さらに来年度は一種住宅の建設を計画している」と述べております。

さて、確かに住宅不足の声は、市民の中にも高まっていることも事実であります。今回、特に低所得者層を対象とした公営住宅の建設のために一億数千万が予算計上されましたことは、住居を求める人々たちにとっては朗報と言えます。

しかしながら、過去に行われました市営住宅の入居を希望した応募状況を見てみますと、次のようになります。申し込み期間としては、五十一年度の場合は応募戸数が七、応募者数が三十九、倍率が五・六。同じく五十一年度六戸、応募者数が三十、倍率が三・三。五十一年度では六戸、三十三、倍率が五・五。同じく五十一年度では応募戸数が六、応募者が三十、五・〇というように平均して見ても、いままでの総計で平均しても四・一四倍ということになっております。市営住宅に申し込みをしましても一度、二度応募からはずれまして、その後応募をあきらめて応募しないという潜在的な数を含めまして、かなりの倍率になると推定されます。住居を求めながら、市営住宅に入居することは、はなはだ狭き門であるという感を深くするものです。

このように、市民の求めている公営住宅の建設は、年次計画だけではなく、長期的に見て計画を立てていくことが望ましいと考えられます。

そこで、この公営住宅の建設計画は、長期的に見てどのようになっておりますか、まずお尋ねしたいと思います。

また、住宅問題の二点目としましては、この入居の応募段階では、入居者の収入額等が厳しくチェックされているわけでありますが、しかしながら、入居後次第に生活が安定をして、所得が増加をして、市営住宅に頼らなくても十分に経済的余力を持っている世帯に関しては、それらの措置はどのように行われてきておりますか。

館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の中で、高額所得者に対する通知の項が第二十五条の二項、明け渡し努力義務が第二十六条に、また割り増し賃料が第二十七条に、また高額所得者に対する明け渡し請求が第二十七条に明文化されておりますが、このへんの運用が円滑に行われているでしょうか。お答え願います。

次に、福祉社会づくりについてであります。ここで述べられております救急医療体制の整備について質問いたします。

市長は、「福祉社会づくりとして、まず救急医療体制の整備でございますが、医師会の協力のもと、現在の休日、夜間に加え、三月一日から祝祭日の診療が加わり、四月一日からは県救急医療体制と直結すべく安房郡市に六方所の情報システム網の整備として、医療端末機を設置し、これが運営の拠点として、消防本部には回答端末機が整備され、救急患者の収容に威力を発揮されることになりました。」と述べておりますが、このシステム網の目指す目的と方法を御説明願いたいと思います。

救急医療につきましては、救急診療が安心して受け入れられるような組織面、体制面での整備も火急であると思います。

たとえば、中央救急医療センターを設け、そこに救急医療に必

要な熟練した専門スタッフ、高度の診療施設、一定数のベッドなどを常に確保して、一次診療の結果、専門的治療の必要のある急患をすみやかに収容し、二次治療ができる後方病院の体制を確立すること。さらには救急情報を設け、受付、救急隊の指定、搬送先、医療機関の指示、相談といった情報連絡をコントロールすることも必要であると思います。

また、深い学識と高度の技術を持つ救急専門医の養成も急がれるわけですが、これは瀕死の重傷患者を目の前にして、専門が違えば何の応急措置もとれないという医師の多いことが、たらい回しにつながる現状もあるように思われますので、この点も留意して考えていかなければならない問題であると思います。

そのほかに、ともすれば運び屋に終わらない救急隊員のレベルアップ、搬送と診療の一元化なども急務であります。

現在、救急医療に対して批判が厳しいのは、こうした救急医療体制そのものが未整理のままであるからだと思えます。今回の方針の中にあります医療の情報システム化を御説明願いたいと思います。

次に、コミュニティづくりの中で防災はどのように進められてきたかという質問であります。今回の施政方針の中では防災は特に触れられておりませんが、五十二年度の方針の中では、この防災問題は、防犯の問題とともに次のような形でとらえております。「さらにコミュニティ係を新設いたし、地域社会における防災、防犯活動から青少年問題まで幅広く進める中で、地域社会における連帯感を育成しながら市民と一体となった活動を展開してまいります。」とあります。また「本年度」これは五十二年度で

すが、「は、特に自主防災、自主防犯という考え方を普及、啓蒙し、自分たちの家庭、町内は、まず自分たちの手でという連帯意識の高揚を図りながら、市民と一体となった活動を展開してまいりたい」というように、市長の基本的姿勢として、防災は地域社会の連帯感意識の高まりの中で、自主防災という形で進めるんだという方向づけがなされております。

そこで、質問でございますが、今回は施政方針の中において、特に防災に関しては触れられていないわけですか。いままで五十二年度から本年度に至るまでの自主防災というものが、実際は住民の中でどのような形になってきているか、具体的にどのような推進がなされてきたかということをお答え願いたいと思うのでございます。

私は、この防災に関しましては、前年度から本年度に市長の基本的な方針としての受け継がれてきていないように感じられるものであります。この防災に関して、もし本年度に受け継ぎがされているとすれば、コミュニティづくりのところでは「本年度もコミュニティづくりについては市民と一体となって啓蒙、育成を進め、市民参加の行政を推進してまいりたい」と述べられている。

このコミュニティづくりの活動の中に自主防災が含まれているのかもしれませんが、大変小さく、軽く扱われている感を感じないのでございます。

防災は、災害から人命を守るといふ政治的役割の重要さからみても、何か一本防災の筋が通ってないような感じを受けます。このへんの見解をお尋ねしたいと思います。

次に、教育環境づくりについてでございますが、施政方針には

「次に、学校プールでございますが、文部省補助対象事業として館山小学校、房南中学校に新設するため、六千九百十万余円を予算計上いたしました。これが完成しますと、建設計画の上で未設置校は第一中学校のみとなります。」というように述べられております。

この未設置校の一中プールの建設の予定はいつになるのか、お尋ねしたいと思います。

過去におきます市内のプール建設は、昭和三十九年には神余中、二中、四十年に豊房中、四十四年に西岬中、同じく四十四年に九重小、四十五年に那古小、四十六年に船形小、神戸小、北条小、四十七年には館野小、四中というように順次行われてまいりましたが、当時地域から半分ないし三分の一度の、地区の大きさに応じて寄付をいただき建設してきたわけです。

昭和五十年の富崎小からは年次二カ所設置計画を立て進めてきましたが、校舍新築等の財政的な面から、理由から、プール建設は遅れていたわけですが、昭和五十三年度に館山小、房南中に建設する予定を立てるということにまで至ったわけでございます。

実際、一中のプールの建設を望む声も間近に聞かれますので、この建設計画をお聞かせ願いたいと思います。

最後に、産業の基盤づくりについてでございますが、特に大型小売店舗の出店に関して質問をいたします。

施政方針の中には、次のように大型店出店指導要綱の制定が示されております。すなわち「大型小売店舗の出店についてでありませんが、近年における経済環境の変化を背景として、大企業が中

小企業分野に進出、あるいは大型小売店舗の新增設等、地元小売業者との競争が増加し、かつ深刻化しております。こうした現状の中で、たとえ法定基準面積未達であっても、その規模において地元小売業者に相当大きな影響を与えられるので、商業環境を十分配慮し、消費者の保護とともに地元小売業者との競争を未然に防止し、かつ調和のとれた商業の発展に寄与できるよう大型店出店指導要綱を制定し、調整を図ってまいる所存であります。」と述べられております。

そこで、この大型店出店指導要綱について質問いたしますが、この問題は、館山商工会議所あるいは消費者生活協議会等でさまざまな角度で論議され、作成のための段階を得て今日に至っていると伺っておりますが、この要綱の目指す目的、また要綱の持つ効果、特色について御説明を願いたいと思います。

以上、五点にわたり御質問いたします。また、市長の御答弁により再質問をしたいと思います。以上でございます。(拍手)

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

質問の第一点は、住みよい環境づくりから、公営住宅の長期展望に立った建設計画はあるか、また運用について改善すべき点はないかという御質問でございますが、市営住宅建設計画につきましては、現在那古市営住宅の建てかえを昭和五十三年度と昭和五十四年度に計画をいたしております。内容は昭和五十三年度に二棟中層耐火構造十六戸を建てかえる計画でございます。

市といたしましては、近年の核家族化等の進展に伴って住宅不

足の緩和を図るため、逐次市営住宅を建設いたしてまいりましたが、昨年、一昨年の応募状況を見ますと、入居希望者も相当数ありますので、今後も用地の取得等に努力をいたしまして、住宅建設を進めてまいりたいと考えております。

また、運用につきましては、公営住宅法と市営住宅の設置及び管理に関する条例に基づいて運営をいたしておりますが、御承知のように、市営住宅は低所得者層を対象としておりますので、特に家賃につきましては、入居後三年を経過した入居者を対象といたしまして、収入基準を超える場合は割り増し家賃を徴収し、パランスをとっているわけでございます。

また、管理につきましても、各団地の班長等と十分連絡をとり可能な限り修理をいたし、整備に努めておりますが、今後も運用等につきまして万全を期してまいりたいと存じます。

御質問の第二点、福祉社会づくりからでございますが、まず救急医療体制の整備についてお答えをいたします。

最重点施策の一つといたしまして、昨年末より安房郡市広域市町村圏事務組合救急医療委員会にこの問題について調査、研究をお願いしてあつたわけでございますが、施政方針の中でも触れましたとおり、安房医師会の御協力により現在の休日、夜間に加え三月一日からは祝祭日の診療が加わり、住民の医療需要にこたえていただいているところでございます。

さらに、県の新総合五カ年計画の中で救急医療体制が円滑に機能を果たすための一つの手段として、広域救急医療情報システムが整備され、五十二年度中県下二百九カ所の第二次病院に医療端末機が設置されました。このうち、安房郡市には館山病院ほか五カ



所に、また県下二次基幹病院十一カ所及び消防本部等に回答端末機として三十カ所が設置され、館山市消防本部に一カ所が設置されました。

この機械は、治療または入院を緊急に必要とする患者の最適な医療情報をすみやかに伝達できる仕組みのものでございまして、四月一日より業務開始となる見込みでございします。

これにより、救急医療の需要にこたえる体制が一応確立されましたが、脳外科等高度の医療技術を要する第三次病院は、県において五十四年度完成を目指し、千葉市検見川地先に建設中でございますが、今後患者の搬送方法等多くの検討事項もございしますので、引き続き救急医療委員会にお願いをいたしまして、前向きにこの問題と取り組んでいく所存でございします。

コミュニティづくりの中で、防災はどのように進められてきたかという御質問でございします。現在コミュニティづくりにつきましては、担当課におきまして市内を十地区に分け、コミュニティ形成の啓蒙を行っておりますが、二月及び今月初め那古、九重地域で地区団体代表者会議が開かれ、他地域も近く予定されているところでございします。

この中で、これをどのように進めていくかということでございますが、昨年九月石井議員さんの御質問の中で、防災は根本的に一人一人の自衛意識と同時に地域の近隣、町ぐるみでこれに当たり、共同活動すべきである。したがって、各地域別に防災対策を強化していく必要があるのではという御提言をいただいているわけですが、このコミュニティづくりの中でも、地域防災の必要をあわせ啓蒙しておりますので、各地域徐々にはござい

すが、やがてりっぱな自主組織ができ、地域防災も確立できるものと確信いたしております。

市といたしましては、機会あるごとに広報等による啓蒙をいたしております。たとえば、一月二十四日の大島近海地震に対しての電話によるアンケート調査の結果、あるいは地震の心得、また対震自動消火ストープの切りかえ等のPRを行っておりますが、これからもこれらPRを続けてまいりたいと考えております。

さらに、今回の補正予算に計上いたしてございします避難場所の表示、あるいは新年度予算には飲料水確保のための浄水機購入をお願いしておるわけでございします。今後とも住民と一体となり行政に即応した館山の防災に努めてまいりる所存でございします。

質問の第三点は、教育環境づくりでございします。第一中学校のプール建設の予定と計画についての御質問でございします。

第一中学校の水泳プールにつきましては、館山市総合計画根幹事業実施計画にもございしますように、昭和五十四年度事業として実施すべく予定をいたしております。規模といたしましては、他の中学校と同規模の二十五メートル、七コースを考えているわけでございます。

質問の大きな第四点、産業の基盤づくりでございします。大型店出店指導要綱の効果をとるに期待しているかという御質問でございします。まず大型店出店指導要綱の内容について申し上げます。

この要綱案は、法定面積未満の大型店でありまして、出店が地元小売業者に相当の影響を与え、かつ紛争が生じていることから、法定面積未満で三百平方メートル以上の売り場面積を持つ店

舗の出店計画を事前にとらえ、中小小売業者と消費者利益の保護を基本としながら、必要な指導と調整を図りたいとするものでございます。

具体的には、ただいま申し上げました範囲の面積の出店計画がある場合、館山市宅地開発事業に関する指導要綱、あるいはこれに該当しない場合は、建築確認申請提出のそれぞれ四カ月前に市長にその計画を提出していただき、市長はその内容をすみやかに館山商工会議所に通知するとともに関係者の調整を依頼、その調整結果は再び市長に通知することになっています。

なお、この要綱につきましては、すでに館山商工会議所、館山商店会連合会及び館山市消費者問題協議会において御検討をお願いし、了解をいただいております。なお、今後市議会の建設経済委員会の御検討をいただきまして、新年度から発効いたしたいと考えております。

なお、発効後におきましては、この要綱の適切な運用によりまして、出店に伴う紛争を未然に防止することができ、調和のとれた協調の中での商店街運営ができるものと期待をいたしているわけでございます。

以上、御答弁を終わります。

〇一七番（石井武敏君） それではいま御答弁を受けたわけですが再質問いたします。

第一点目の公営住宅問題につきましてでございますが、いま御答弁を受けたんですが、何か長期的な展望という点から、そういったものがないように感じられるわけです。用地の取得に努力をされるといふ御答弁もありました。長期的な展望というのは、ま

ず用地の取得という計画から始まるようにも思いますが、そこで質問しますが、いままでの市営住宅はほとんどが市有地あるいは借地による住宅建設が今まで進められてきたわけでございます。

昭和五十三年度の国の地方財政計画の中では、公営住宅建設事業の中で宅地取得貸付金の制度、これは地方債による計画でございますが、非常にこれが使いやすいワケが広がってきているわけでございます。

すなわち、地方の単独事業についても公共事業と同じように大幅に増加していくという国の方針があります。この方針に基づきまして地方債のワケが広がってきているわけでございます。どの程度広がってきたかといいますと、政府資金として公営住宅建設事業のうち、宅地取得資金貸付金いままでも十二年だったものが二十年というふうに広がってきております。住宅の新築資金貸付金これも十五年から二十年に広がってきております。

というように、住宅を求める時代的な要望と相まって、政府の方もこういった貸付金の額を広げてきているわけですが、こういった大いに使えるものがあるように思うわけでございます。長期計画を立てた中にこういった地方債を使っていくという方向、この運用について、市長さんはどのように考えますか。お聞かせ願いたいと思います。

それから、救急医療についてでございますが、現在の救急医療施設は告示制になつてゐるわけでございます。この告示制というのは昭和三十九年の厚生省令によりまして定められたものであります。救急医療施設として必要な一定の条件を備えた病院や診療所が救急医療の協力を申し出れば、県知事がこれを告示すること

になっております。あくまでもこれは自発的なもので義務はないわけでございます。しかし、こういうように救急医療体制の救急医療の施設側の自発性に頼っている限りでは、なかなか救急医療の万全を期すことはむずかしいと思われるわけでございます。

なぜかといいますと、ある程度営利を求めている私的施設でございますので、いつまでも採算のあわない、度外視した業務を続けさせること自体無理があるというように思われるわけでございます。

これは館山市以外の話ですが、結局、救急医療指定病院として告示をしたんだけれども、苦勞するわりに報酬が少ない。赤字経営になってしまふといつて、救急医療を返上する例も他市にはあるようにございます。

当市におきまして、こういう点、実際これからやろうとしていく救急医療体制に、いまのままの路線で無理がないかというように疑問が起るわけであります。その点、どういふふうに考えられますか。

それから、次に防災問題でございます。これはただいま御答弁いただきました町ぐるみの地域防災、これを推し進めていく。大変結構なことだろうと思います。

私が再質問としてお聞きしたい点は、館山市の地域防災計画といるのがあると思います。これがいままで時代に適合しない点があったり、多少不備な点があったりしまして、それを全部洗い直して、全部組み立て直すという御答弁をかつての本会議の私の質問の答弁として承ったことがあります。この地域防災計画の洗い直し、作成のし直し、その計画が進められているのでし

か、どうでしょうか。それをお答え願いたいと思います。

それから、大型店の出店指導要綱についてでございますが、これは前々の本会議通告質問のときにも申し上げましたけれども、同じ取り上げ方になるわけでございますが、一つお聞きしたいことは、何かこの種の問題を市という立場で、計画のある大型店となまで接触していくという形、こういう形についてどういふふうに思いかということでございます。

聞くところによりますと、市原にかつてイトーヨーカ堂が進出してまいりました。そのときにイトーヨーカ堂の販売計画とか、さまざまなこれに類する書類を市の方に求めて市原市の方にそれを提出したということに聞いておりますが、こういうように出店する側と市の側と相互信頼の上に立って話し合いが行われたというふうに聞いております。

今回の大型店出店指導要綱の扱い方を見ますと、何かなまのま市が直接にそういった出店計画を求めたり、直接に接触したりということを選けるように感じがするわけですが、こういう間接的ないき方、あり方というものにちょっと私は疑問に思うわけでございます。ですから、こういった点をどういふように基本的に考えているのか、お聞かせ願いたいと思います。

また、指導要綱の中のねらい、内容、特色を見ましても、各市各市といひましても、千葉県下茂原市等わずかの市でこの指導要綱に属するようなものをつくっているわけでございますが、それらの市と館山市とは環境、状況がさまざまに違ってくるわけでございます。人口とか、世帯数とか、潜在的な購買力とか、ですから、館山市の他市とは違った形の特色のある指導要綱になるん

はないかと私は期待しているわけですが、この点で、他市と比較しまして、どの点に市としての特色を持った要綱をつくらうとしているのか。このへんの違いをお聞かせ願いたいと思います。

〇建設課長（飯田治男君） 先ほど、市長が答弁いたしましたように、今後用地の取得に努力する。できるだけそういった貸し付け等を利用いたしまして、今後の計画を立ててまいりたいと思います。

〇保健課長（吉岡政雄君） 救急告示病院につきまして御説明いたします。

お尋ねの告示でございますが、これは安房郡市におきましては四十二年一月六日に告示されました病院が十三ございます。現在は十二でございます。このうち、館山市におきましては五カ所でございますが、現在は四カ所となっております。

ここで、先ほど採算が合わないからというようなお話もございましたが、確かにそのとおりでございます。しかしながら、救急告示病院という告示しなくても、現在の体制といたしましては、夜間待期施設というものが十五カ所ばかり安房郡市に設置されておりまして、これが毎日それぞれの系統に分かれまして、外科、内科等に分かれまして、二施設がその診療に当たっております。そういうわけで、告示病院とならないまでも、そのような仕事ができるような体制に一応は整っております。

〇社会開発課長補佐（脇田元始君） 館山市地域防災計画の修正についてでございますが、これは昨年の九月御質問いただきました修正を予定しているということを申し上げました。そのような形で進みまして、この二月を予定しておりますわけでございます。

が、部制の話が出まして、この計画の中で部制が出ますと、また修正をすると、組織の修正ということが行われますので、したがいまして、四月以降を考えております。

〇商工観光課長（中村正雄君） 大型店の問題でございますが、先ほど、市長答弁のございましたように、宅地開発事業等の計画があった場合にはその四カ月前、あるいはそれに該当しない場合には建築確認申請の四カ月前というようにございまして、当然それらの書類が提出されまして、特に宅地開発等の問題については、市との直接の接触はできないわけでございますけれども、それらの指導要綱の基本になっております国の大型店舗法これがやはり商工会議所の中にございまして商調協での調整ということでございます。県におきまして現在実施されております三団体申し合わせ事項についてもやはり同じような趣旨でございます。したがって、そういう国、県等のやはり調整方法に準じて行うことが一連の商業活動としては適当ではないかというような考え方から、同じような方向を考えたわけでございます。

なお、他市と比較して、別の特色のある点はどうかということでございますが、いま申し上げましたようなことから考えておりますので、特に特色関係というものはございません。

〇一七番（石井武敏君） 第一点目の公営住宅問題でございますが用地の取得に関しては、政府の貸付金等もこれから考えていきたいという答弁があったわけでございますが、ぜひそういう点で計画を立てていただきたいと思うわけです。

現在、いままです入居している人たちのことに関しまして、質問します。

館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例に基づいて行われている管理状況について質問したいと思うわけです。この管理条例の中の第二十一条の「入居者は、市営住宅又はこれに付属する敷地を他の者に転貸し、又はその入居の権利を他の者に譲渡してはならない。ただし、市長の承認を得たときは、市営住宅の一部を他の者に転貸することができる。」という条文があります。この条例で、実際に市長の承認を得て他に転貸しているものがあるかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

それから、第二十三条「入居者は、市営住宅を模様替えし、又は増築してはならない。ただし、原状回復又は撤去が容易である場合において市長の承認を得たときはこの限りでない。」というような条文がありますが、これで、市長の承認を得たものがあるかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

それから、第二十五条収入に関する決定でございしますが、「三年を経過した日の属する月の三月前の月の末日までに、市長の定めるところにより、収入に関する報告を行わなければならない。」ということになっていますが、これはきちっと報告がなされているわけでしょうか。

それから、第二十五条の二の高額所得者に対する通知の項でございしますが、これは市長が高額所得者に対して通知をする。この通知したものがいままでもあったかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

それから、第二十七条の二にあります高額所得者に対する明け渡し請求これは「市長は高額所得者に対し、期限を定めて当該市営住宅の明け渡しの請求をするものとする。」という条例になっ

ております。こういった請求はいままでも出したことがあるかどうか、その点を教えてもらいたいと思います。

それから、次に救急医療問題でございしますが、これにつきましては情報システム化になるわけで、雑ばくな理解ができたわけでございますが、その情報システム化をなされたときに、やはり問題が生ずると思いますが、ともすれば、ただ患者を運ぶという運び歴に終りかねない。救急隊員のレベルアップといいますか、搬送と診療の一元化。こういった点で現在は搬送と診療というものがばらばらに行われているわけでございします。ですから、この救急隊員の質的向上といえますか、それはどのへんまで考えて、このへんまでならできらうというお考えがやはりになるか、お聞かせ願いたいと思います。

それから、防災問題についてでございます。これは市長さんなどの程度基本的に防災に対して考えておられるかという基本的な方向を私は知りたいということでの質問をするわけでございしますが、たとえば、房総半島の異常隆起という問題があります。これはいろんな学説がありますから、単なる学説だと受けとめられるか、あるいは科学的に分析して、それに対応してある程度対策を立てなければいけないのではないかというふうに考えるか。市長さんの受けとめ方によって防災の力の入れ方というのがかわってくると思います。

そこで、質問するわけですが、房総半島の異常隆起につきましては、昭和四十六年当時地震予知連絡会長であった萩原という人がおりますが、その方が房総半島に関して書いた論文の中で、こういうふうになっています。「昭和四十四年地震予知連絡会が発

足して間もなく、房総半島で行われた水準測量の結果から、同半島が最近二年間年間十ミリという異常な速度で隆起したことが報告され、これを確かめるために、この地方の観測をさらに強化することが申し合わされた。観測強化の第一号ということで新聞、テレビに大きく報道される結果となった。

その後、一年半を経過した今日までに、国土地理院では、伊豆大島と本州との間の三角点間の距離を光波距離測定機で測かるといういわゆる測定を行い、さらに同種の測定を房総半島内部で行った。その結果と関東地震直後の三角測量の結果と比較し、土地のひずみが計算された。それによると、房総半島においても、相模湾においても関東地震後約五十年間に蓄積されたひずみの量がある。このひずみが過去五十年間毎年同じ割合で蓄積されたとして、今後ともこれと同じ割合で蓄積されるとするならば、このひずみが破壊限度に至るのは百年以上かかることになる。しかし、前にも述べたひずみがある値に達したことは、ひずみの進行進度が急に加速されることも考えられる。そこで、今後この測定を繰り返して監視していく必要がある」というふうに書いております。このように、房総半島というものは、本当に住んでる私たち以外の地域の人々が非常に注目しているところであろうと私は思います。

ですから、これらの諸問題を、市長さんが単なる学説であると受けとめるか、あるいはこれに対する、たとえは地震がくるとは学説的にもはっきりしていませんが、その予防を考えると、それによって大きく防災問題の扱い方が私にかわってくるのではないかと思います。

そこで、再々いまままでこの点で質問しましたが、きょうはあえて論文を引用させていただいたわけでございます。というのは、客観的な判断、客観的な立場からこの房総半島を見ないと真実がわからないという点もあります。市長さんの考えるところを聞きたいという私の質問でございます。そういう点で、基本的に一つ市長さんはこういう問題をどういうふうに受けとめていらっしゃるのか、お聞かせ願いたいと思います。

それから、大型店出店指導要綱についてでございます。この指導要綱につきましては、商工会議所あるいは消費者生活協議会で、すか、いろいろと論じられてきたと思いますが、特に論点になった場所があれば、お聞かせ願いたいと思うわけです。

○建設課長（飯田治男君） お答えいたします。

第一点の入居者の第三者に室を貸すということでございますがこれは現在のところございません。

模様がえにつきましては、当初の建物が十坪程度で物置程度が必要な場合もございますので、物入れということで申請がありましたものには一応許可をいたしております。

収入報告につきましては、毎年市の方に報告していただいております。七月一日現在で割り増し家賃を決定いたしましたして、各入居者に通知をいたしまして四月にさかのぼってその家賃を納めていただいております。

それから、明け渡し請求につきましては文書ではやっておりますが、昨年の七月一日現在では三名ございました。一名は新築をいたしましたそちらに移られております。一名はいま土地を物色中だということで、もう一名の方は現在は所得がオーバーでこ

さいますが、近日中に退職ということと収入が減るということとで一応いまのところ、今後の様子を見てそれによってきめたいと思っています。

保健課長（吉岡政雄君） 搬送と診療の一元化ということについてお答えいたします。

これは情報システムが整備されたということで、先ほど市長から申し上げましたとおり、治療または入院を要する患者の最適な医療情報をすみやかに伝達できるというふうにお答えしたと思います。

この中で、消防署に回答端末機というものがございます。これは消防署でボタンを押しますと、ブラウン管に県下二百九カ所のそれぞれの診療所の受け入れ科目、外科ですとか、内科ですとか産科ですとかいろいろございますが、その情報がすべて消防署でキャッチできる。それによりまして、その患者の状況に応じまして、安房郡市だけではどうしても受け入れることができないというような場合には、まず隣の君津とかというような情報が消防署でキャッチできる。それによりまして搬送ができる。こういう搬送と診療の一元化がなされる。こういうふうに考えられてもよろしいんではないかと思えます。

次に、救急隊員の資質向上でございますが、これは消防本部におきまして常時訓練はしております。研修もしております。ございますが、県におきまして消防隊員の訓練、そういうこともやっておりますので、徐々に御期待に沿うような方向に図られていくのではないかと。こういうふうに考えております。

市長（半沢良一君） ただいま、房総半島の異常隆起についての

萩原先生の学説の説明がございましたが、元の東京天文台長の萩原先生だと思えますが、房総半島の地震の可能性についてはいろいろ学者が言っております。いつ地震が起こっても不思議ではない。こういう状況であるというふうには考えております。

それに対する対策を講じているわけでございますが、やはり災害になりましたときには、やはり行政体のすべき仕事というのは非常に限られた範囲しか仕事ができないんじゃないか。やはり基本的に地域ぐるみお互いに助け合うという、そういう姿勢がなければならぬというふうに考えております。

こうした過程の中で、こうした運動を続けたいというふうに考えております。もちろん、行政の立場でやるべきことはやらなければならぬわけでございまして、先ほど申し上げました避難場所の設置とか、あるいは浄水機も用意します。そういうものも今後続けていくつもりでございます。

それからまた、いま学校建築も急いで実はやっておりますけれども、これはもちろん一つは、本来的には学校教育施設の完備というところでやるわけでありますが、地震ということも十分考えまして、大事な子供さんをお預かりするのに、もし授業中にそういうことがあってはいけませんので、鉄筋化を図りたい。そんなふうに考えているわけでございます。

〇商工観光課長（中村正雄君） 大型店出店指導要綱について、いままでは各団体との論点はなかったかということでございますけれども、商店会連合会並びに消費者問題協議会におきまして、下面積の三百平方メートルは少し低いのではないかと、もう少し引き上げてほしいというふうな要望が出たわけでございますけれども

確かに特殊な店舗、たとえば家具店等におきましては三百平方メートルというのは若干低いという感じもいたしますが、やはり総合的な業種に対します適応でございますので、今後発効し、推移の中で適当でないという点が考えられますならば、その時期に検討するということでお答えをし、了解をいただいております。

〇一七番（石井武敏君） 第一点目の公営住宅問題につきましては過去の応募数を見ましても、受け入れ数が絶対的に不足しているのは明らかでございます。この点で、長期的に計画を立てて住宅難を解消していく方向を立てていただきたいということを要望いたします。

救急医療体制につきましては、このシステム網の設置を一つの契機としまして、救急医療の実態を徹底的に洗い直して、地域住民がその生命と健康に対して不安のない、いつでも、だれでも受けられる医療体制の確立をするために取り組んでいただきたい。要望して終了します。

また、防災問題に関しましては、先ほどの質疑から感じられましたが、地域防災計画の策定が大変遅れているように思うわけでございます。これは災害対策基本法によりまして、市町村の義務として、当該市町村の地域にかかわる防災に関する計画を作成し、及び法令に基づきこれを実施する義務を有するということ。これは災害対策基本法に述べられておるわけでございます。ですから、そういうように市町村に義務づけられた地域防災計画、この作成がいまだなされていないというのは大変その点遺憾に思うわけでございます。ですから、いわゆるこの点取り組んでいただきたいことをお願いいたします。

それから、第一中学校のプールの建設につきましては了承いたしました。

なお、大型店出店指導要綱につきましては、別の機会にまたいろいろと論議をしていきたいと思っております。

以上で、質問を終わります。

〇議長（吉田勇治郎君） 以上で、一七番議員君の質問を終わります。

次、一八番議員渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

〇一八番（渡辺軍治郎君） 私は、次の四点について質問したいと思います。

第一は市長の施政方針に対する政治姿勢の問題、第二は米の生産調整の進行状況と見通し、対策について、第三は目的税としての都市計画税に関する問題、第四は水洗便所設置に関する問題であります。

まず、第一点の市長の政治姿勢についてですが、基本的な問題についてお伺いしたいと思います。

市長は、施政方針の中で、市政を担当してから三年、人間尊重、市民生活優先を根本理念として、明るく豊かな住みよい文化福祉都市の実現に向けて最善の努力をし、赤字財政を克服したと言っています。が、中身は自民党政府の高度経済成長政策の失敗による地方財政の危機を、市民の犠牲によって切り抜けてきたものになっています。

五十一年度決算でも明らかに、乳幼児医療費、幼稚園保育料、ごみ手数料の有料化、使用料、手数料など公共料金の値上げで、不況とインフレで悩む市民生活を圧迫してきました。その



額は五十一年度黒字相当額五千六百万円になっています。五十二年  
年度も汲み取り手数料や幼稚園保育料、市営住宅家賃の値上げな  
ど受益者負担の原則を一般化し、市民に負担を転嫁する方向で市  
政を運営してきました。これは市長の根本理念である市民生活優  
先とは相反する矛盾したものとなっていますが、この点に対する  
反省はなかったのかどうか。お伺いします。

また、財政赤字を克服したと言っていますが、四十九年度から  
持ち越された三億円余の赤字財政は借金に肩がわりさせたもので  
五十一年度の借り入れは前年度の三倍、九億七千万円の増となり  
五十二年度借入金に残高は二十九億円を超え、元利償還も三億九  
千万を超えています。五十三年度は五億八千万円の市債を見込み  
その残高も三十三億九千万円に及び、財政の不健全化を深刻にし  
ていると思いますが、市長はどのように考えているか、お伺いし  
ます。

次に、館山運動公園の建設についてですが、これは県の事業と  
して施行されますが、総事業費二十七億円に対する市の負担を八  
億円見込んでおります。この運動公園用地については七年前、前  
市長が十分な検討もされないうちに谷藤原の山林七万五千坪を開  
発公社に買取させたいわくつきのものですが、利子負担を軽減す  
るため、市が公社から買い上げ、もてあました結果、県に開発を  
要請したもので、八億円の市の負担金は少なくない額であります。  
急いでやらなければならぬ事業には、衛生処理場や公共下水  
道など莫大な予算を必要とするものが山積しています。選択的に  
は市民生活に密着した施策を優先的に行うべきだと考えますが、  
どうか、お伺いします。

次に、市長はコミュニティづくりで市民参加の行政を推進した  
いと言っていますが、既存の自主的、民主的組織である区や町内  
会を行政事務委託に関する規則によって行政の足に使い、自治会  
としての発展を妨げてきました。これはコミュニティづくりと矛  
盾しています。

特に、問題なのは、館山市の発展や市民の生活と権利に重大な  
影響を及ぼす施策が市民の知らないところで決定され、押しつけ  
られる問題であります。

実例を挙げれば、都市計画道路、館山バイパス路線の路線問題、  
し尿処理場の用地の問題、近くは中学統合問題など、決定前に広  
く市民の意見を求めるのでなく、決定してから実施するために協  
力を求めるという前近代的な問答無用の行政が行われています。

市長のいう市民参加の行政とはどう理解しているのか、お伺い  
します。

次に、第二点の米の生産調整についてですが、この減反問題に  
ついては、十二月の議会では農家の実情から見ても、農業や農民の経  
営に大きな打撃を与え、地域経済にも深刻な影響を及ぼすものと  
して、その対策について質問しました。その当時は、まだ農家に  
割り当ても行われていない時期でありましたが、その後の進行状  
況についてお伺いしたいと思います。

私は、三月二日に湊区と広瀬区を視察しました。湊区は一四・  
五%の割り当てに対して、九〇%の農家が湿田で転作できないと  
減反に反対の意向を示しておりました。

広瀬地区は九〇%が基盤整備を終っている中で、二九%の割り  
当てに協力したいと言っておりますが、両地区とも共通している

ことは、机の上の計算で、米が百七十万トン過剰になるからといって、農業の実情を無視して減反を押しつけるのは無理であるということ。転作するにも三ちゃん農業で労働力がないということ。転作しても収入の保証がないということでした。

そこで、農民から要求として出されたことは、食糧制度は維持してもらいたいこと。転作物に対する価額保証をすること。学校給食など米の消費を拡大すること。転作するための圃場整備をすること。地域 conditions に合った転作物、その種苗の確保、技術指導転作物の販路の確保、最後に日本農業を圧迫する農産物の輸入自由化を阻止することなどでありました。

市長は、これらの切実な農民の要求を国や県に向かって要請する必要があります。その考えがあるかどうか。お伺いします。

次に、第三点の都市計画税に関する問題ですが、この問題については二月二十二日の臨時議会で、都市計画法第五条と地方税法第七百二条との関連で質問しました。

この都市計画税は昭和三十一年度が始まっておりませんが、どのような都市計画事業を設定され、目的税である都市計画税との関連で、どう経過してきたか。また最近、館山運動公園及び中央公園の土地購入費が公園費の中に見込まれているが問題はないのかどうか。また、税収が計画事業費を上回り、他に流用されているが、目的税の本質から見てどう考えているのか、お伺いします。

次に、課税価格についてですが、地方税法も、市の条例も固定資産税の課税標準となるべき価格となっております。ところが、実際には評価額が課税価格になっているので、釈明を求めたいと

思います。

次に、第四点の水洗便所設置に関する問題ですが、市民から水洗便所設置の申請書が提出された場合、市では事前協議の上、認めているようですが、区長や町内会長が同意の印を押さないと、水洗便所を取りつけることができない仕組みになっているので、市民から苦情が出ています。これでは、結果的には区長や町内会長に許可権が与えられ、行政に介入することになるが、どのような規定で行われているのか。お伺いします。

以上ですが、不十分な点は再質問で行います。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 渡辺議員の御質問にお答えをいたします。

まず、大きな第一点ですが、私の施政方針に対する政治姿勢についての御質問でございますが、公共料金とか、ごみ手数料あるいは幼稚園の保育料を取るのとはどう考えているんだという御質問でございますが、施政方針の中でも申し上げましたとおり、市町村財政を取り巻く情勢はきわめて厳しいものがございまして、その限られた範囲内の予算で、いかにそれを有効に配分するかということを常に考えているわけでございます。

公共料金、ごみ手数料あるいは幼稚園等は応分の受益者負担をお願いいたしたい。また、受益者が負担するのが当然であるというふうに考えております。

それから、赤字財政を克服したけれども、市債がふえているじゃないかという御質問でございますが、確かに市債はふえていますけれども、市債がふえているというところが直ちに不健全財政ということではございません。

現行地方財政制度の中で、地方債は大きな役割を果たしているわけでございます。昭和五十三年度の地方財政計画の中でも、地方債収入は歳入全体の一・七％となっているわけでございます。市債は、地方自治法あるいは地方財政法に認められた制度でございます。これが許可に当たっては一定の制限もございますし、財源の効率的な活用によって行政水準の向上を図るということは市の財政運営上、当然の処置であると考えております。

ちなみに、館山市の場合、五十二年度の公債比率は、繰り上げ償還分を除きますと、八％でございます。きわめて健全な財政運営を行っているかと確信をいたしております。

藤原運動公園でございますが、取り上げられましたけれども、すでに私の就任前に議会で御決定をいただいたもののように私は理解をいたしております。これはやはり市長がかわったからといって、その計画を破棄するというわけにはいかならないと思います。議会の皆さま方の意思をあくまでも尊重してやらなければならぬことだというふうに考えて、就任以来この問題の解決に努力をいたしたつもりでございます。

そういうものをやりながら、もっと大事なものがあるじゃないかというお話でございますが、確かに御指摘のように、し尿処理場等早急にやらなければいけない問題があるわけでございますが、これにつきましては、施政方針の中で御説明いたしましたように繰り越し財源等をいつでもし尿処理場建設で使えるだけの財源として充てるつもりであるわけでありまして。

それから、都市計画道路とか、中学の統合とか市民に対して問答無用だと、市民参加といいながら問答無用の政治姿勢ではない

かという御質問でございますが、これは見当はずれだろうと思っております。

私は、常に市民参加を呼びかけ、コミュニティづくりを呼びかけておりますことは、そういう基本的な私の、コミュニティづくりをしたいという私の基本的姿勢から御理解をいただけるものと思っております。

大きな第二点は、米の生産調整の進行状況と見通しについてでございますが、昨年の十二月に県から転作目標の面積の指示を受けまして、一月十日農政審議会の御審議をいただきました。基本的な配分方法が検討されたわけでございます。その後、二月三日に農業委員、農協理事の合同協議会におきまして、配分方法の説明をいたし、御理解と御協力を求めたわけで、二月六日から市内八カ所において農業協力員会議を開催し、部落別、個人別に仮配分の内示をいたし、部落内での転作目標、配分面積の調整を依頼し、現在に至っているわけでございます。また、部落の要請により、部落単位の説明会を開催いたし、農業生産者の御協力をいただいているわけでございます。

今後の見通しと対策につきましては、県の関係機関や農業団体と協議し、進めてまいりたいというふうに考えております。

この減反に反対し、返上する意思はないかという御質問でございますが、現在のところ、農家の方々のいろいろの御協力を得ながら、これを執行してまいっておりますので、返上する意思は私にはございません。

次に、大きな第三点は、目的税としての都市計画税と都市計画法による事業との関係、並びに課税価格についての御質問でござ

いますが、御承知のように、都市計画税は地方税法第七百二条及び市税条例第四四条に基づく都市計画法第五條の規定により指定された都市計画区域内に所在する土地及び家屋に対して、その価格を課税標準として所有者に課税を行っているものでございます。したがって、都市計画税は都市計画法との関連のもとに道路、公園、その他都市施設の整備費用に充當されているわけでございます。

特に、都市計画税は目的税でございますので、その使途につきましては、自治省及び建設省の依命通達によりまして、すでに実施した事業並びに現に実施中の事業、及び今後実施することを決定した事業のために必要な直接、間接の費用であることが定められております。

たとえば、当該事業の実施のため、借り入れた借入金の償還費等も含まれ、また、その財源を求める事業は国庫補助対象事業のみに限定されるのではなく、市の単独事業についてもこれを充當し、都市計画事業の進展が図られるように考慮されたものがございます。

過去の年度によっては歳入歳出の面でのバランスを欠いた面もございますけれども、その年度年度の歳出に見合った税の課税ということは事務的にも困難でございます。また、納税者に対しましても、急激な負担増を与えてはならないという租税原則もございまして、制限税率の範囲の中で、現在はもちろん将来にわたって都市整備の推進を図っていくことになるわけでございますので、そういう趣旨を一つ御理解をいただきたいと思ひます。

また、藤原の運動公園を公園費の中に入れて差し支えないかというお話でございますが、差し支えないものというふうに考えております。

なお、課税価格についてでございますが、都市計画税の課税の基礎となる価格というのは、当該土地または家屋にかかわる固定資産の課税標準となるべき価格、すなわち評価額のことでございますので、本来評価額を課税標準とした評価額課税がたてまえてございますけれども、地価の急騰による土地の評価額の上昇による納税者に急激な税の負担を避けるため、五十一年の三月議会でも御説明申し上げましたとおり、負担調整制度を設け、段階的に解消し、現在に至っているものでございます。

大きな第四点、水洗便所の設置に関する問題点でございますが、し尿浄化槽を設置する場合は、その放流先等について市町村長との事前協議が必要とされておりまして、そして、放流先が水路、下水路等である場合は、その所有者または管理者の承諾を受けなければならぬということになってるわけでございます。

したがって、道路の付帯設備であります道路側溝へ放流する場合は、国、県、市道それぞれの道路管理者の承諾が必要になるわけでございます。

現在、放流先が市道側溝である場合、管理者として適否を判断するに当たっては、それぞれその地域の区長さん、町内会長さんの同意を得た上というように考え、そのように取り扱っているわけでございます。これは側溝の清掃は各区、町内会長で自主的に行っていたにいたっていること。また浄化槽の管理が悪い場合、直接影響を受けるのは周辺の方々であることなども考えての措置で

ございまして、事前協議の適、不適に対する最終的な責任は市にあるわけでございます。しかし最近、設置数が多くなってきたためか、区長さん、町内会長さん方から同意をすることによって責任を押しつけられるように困る。あるいはめんどうだという声も出てきておりますので、今後の取り扱いについては検討いたしているところでございます。

以上、答弁を終わります。

〇一八番（渡辺軍治郎君）　まず、第一点の政治姿勢の問題についてですが、市長の答弁では、市のやる事業について、市民に応分の利益を負担させるのは当然だ。こういうようなことで公共料金の値上げやなんかを見ておられるわけですよ。これが市長の政治方針なんです。一体受益者負担の原則というのはどういうものか、知っていないということなんです。

地方自治法や地方財政法で受益者負担の原則というのは、七、八人のごく少数の人とか、全体の地域の中でごくわずかな地域の人が利益を受けるような、こういうものに対しては当然その受益の限度で負担をさせてもいいということが、これが原則なんです。

し原だとか、ごみだとか、教育のいろいろな使用料、手数料たくさんありますが、こういうものは市の固有の事務ですよ。市が当然財政的にやらなければならない事務なんです。それを市民に負担を転嫁させる。こういうことでやってきたのがいままでの市長の業績ではないんですか。それを反省もしないで、いまになっても応分の負担を市民に転嫁するのがあたりまえだというように考え方を持ってる。これは市長選挙、改選をひかえまして、（笑

声）市長の政治姿勢として重要な問題だと思っんですよ。

こういう点を、いま私の言った地方自治法や地方財政法の観点から見て、一体どう反省されるのか。そういうところを重ねて質問したいと思います。

それから、赤字財政の克服の問題でも、結局市長の考えでは健全財政ではないんだ。こういうふうに見ているわけですが、個人の家でも借金がどんどんふえていくというようなことをそのまゝにしておいて、健全だというふうには言えないわけですよ。当然借りた金は返さなければならぬ。

政策的には、長期の見通しに立って起債も必要であります。このことは当然認めますが、しかし借入金金の残高が三十三億円を本年度は越えると、予算の大体半分に相当する金額が借入金残高として残っているわけです。しかも、その元利償還は本年度の予算で見ますと三億五千万円、補正予算の残高で見ると三億九千万円、こういうふうに元利償還がかなり市の財政支出の負担になっていることは、これははっきりしています。したがって、借金がふえれば、そのしわ寄せは当然市民に転嫁されていく、そういうふうに見ないで、これが健全だというふうなことを言ってるのはちょっと問題ではないか。その点に対する反省がないが、いま一度その点を確認したいと思います。

それから、運動公園建設の問題ですが、議会で議決したものだというふうなことを市長は言いましたけれども、これは引き継ぎを受けていなかったんではないか。議会で議決してはいません。これは開発公社が開発公社として谷藤原の山林をグラウンドをつくるという前提のもとに公社が買収したんですよ。

ですから、そのときには私が問題にして、地方自治法の三百条と三百一条で、公社にそういうものを委託する場合には事業計画と財政計画をつけて出すように地方自治法ではきめられているわけです。そういうことを市でやって議会で議決していないんですよ。これを追及したら、十分の討議をしないうちに公社の方がかなり早めてその問題が起こっているうちに買収されたわけです。

七年前ですから、今年になると利息がかさんで約その倍額の一億六千万ぐらいで買ったものが三億三百万にもなっているわけです。当然公社が買ったものを利息負担を軽減するために、市が起債に肩がわりさせるといふようなことでやったことは認めますが、しかし運動公園そのものがそういうふうにしてやったために公共用地として買収したのではないんです。公共用地として買収すれば譲渡所得に対しては二千万円まで免税になるはずで、事務署が認めれば、事業計画、財政計画をつけてやらなければ公共用地として認めないわけです。公共用地として認めないものを公社が買ったわけです。

そういうようないきさつがあって、この運動公園が市ではちょっとでもあましているわけです。市が開発すれば二十億円以上の金がかかる。そういうことができないから県に要請して、県が十カ年計画でやるということになったけれども、市の負担金八億円というのはかなり大きいわけです。

ですから、この負担金の問題でも、県道の改良、舗装とか、そういうことで負担金取っています。議案の中で負担金の問題は追及したいと思うんですが、相当大きな負担がかかるわけです。

こういう事業は、いま急いでやらなければならぬかどうか、そういう問題ではないと思うんです。先に延ばしてもいい問題、処理場とか、公共下水道とかむしろ急がなければならない方の仕事があるわけです。そういうことを施策すべきであって、これをまた公園費の中に入れた、あとで問題にしますが、結局これは市の財産の問題ですから、将来運動公園にしても、八億円の地元負担というのはあれですが財政措置をして、財産の要するに市が取得したものですから、財産管理としてこれを受け入れるのが妥当だと私は考えていますが、そういう点について一体、市長の考えでは、いま新しくやるような事業は財源の用意があるというようなことを言っていますが、しかし、限られた予算の中でこういうことをやれば、結局先にやる仕事と、あとでやってもいい仕事、市民の負担にかかっていく問題ですから、その点の考え方が市民の立場に立っていないのではないかという点を追及したいと思います。

それから、町内会の問題、これは予算の中でやりますが、結局館山バイパスにしても、反対協議会ができてかなり困難が予想されるわけです。中学統合問題も決定といいましたけれども、案として出されておりますが、この案を通そうという考えが強いわけです。七校の中学校を四校にすると、都市計画道路にしても市民がだれも知らないうちに線が引かれて、一体将来どうなるんだという心配もあるわけです。

そういうことが、市民との話し合いもなしに、一部のところできめたことが、これをやるんだということで協力を求められるから、うまく進まないわけです。それは上真倉の処理場の問題でも

はつきりそういう問題が出てゐるわけです。

こういうやり方について、市長は見当はずれだという答弁、何が見当はずれですか、当然のことではないですか。市民参加と、市長は政治をやると言って、市民をそっこのけにしておいてやると、という批判は当然出ると思うんです。こういう点で、市長は反省されずにやっていくのか。重ねて質問したいと思います。減反問題については、市長は私の言ったことをよく聞いてないですよ。(笑声) 返上する考えはない。こういうことを答弁している。

私が言っているのは、私は実情を調べて、農民が非常に困っている。その中でいろいろ要求が出された。七項目の要求が出てゐる。返上するとは言っていないです。実施するためにこういうことをやってくれということ言っているわけです。

食糧制度を心配しているんですよ。減反実施しなかったら、食糧制度くずれるのではないか。そうしたら、農家は米に頼っている。そういうものがやれなくなるからどうするんだ。将来の大きな問題になっている。だから、食糧制度を維持してもらいたいというのは、政治に対する要求は当然市にやってくれといっても、市はできませんから、国に要請するしかほかないわけです。

転作物に対する価額保証、これだっせん。だって視察したところで聞いたところでは、一万円の大豆で収穫を上げるのには一万五千円の経費をかけなければできないというんですよ。これは畑につくってそうです。田んぼにつくってそれだけの収穫が出るということはだれも考えてない。豆腐屋に行って大豆を買う方がよっぽど安いと言っているわけです。こういう実情から、やはり転作

物を価額保証しなければ、市長がこの前の議会で答弁したように利益が減らないようにやっていくという、とてもじゃないけれども、できっこない。だから、農民が心配してこういう要求を出しているわけです。

学校給食など米の消費をふやす。米を余さないで米を消費することをやらなければ、日本の農業は食糧問題として大きな問題です。週二回の学校給食を週半分の学校給食にする。だんだん米の給食をふやして米の消費を図っていく。また、その他消費を招来するような、そういうことをやってもらいたい。要望ですよ。これは減反を返上するということじゃないんです。市長さん、よく聞いておいてくださいよ。

それから、転作するためには、湿田ではこれはやれといつてもできないんです。圃場整備しなければ、圃場をやるようなことを農家ができませんか、自分の金で。そういうことを言っているわけです。

地域の条件に合った転作物、大豆をつくれといっても、麦出ていますが、畑に麦をつくっても採算が地域的な関係で収穫の品質が悪くてだめだ。水田に麦つくってもうまくいくということを考えている農民、一人もいません。だから、地域の条件に合った転作物です。

それから、それに対しては、いま大豆をつくれといっても種がないでしょう。どうするんですか。その地域に合ったものをつくるようにする。種苗の準備をしなければならぬし、そういう準備があると聞いていません。

それをつくるにしても、技術指導が大変なんです。その技術指

導をやってももらいたい。当然上の方に要求しなければできないこととすよ。

そういう転作した品物の販路を確保しないで、館山でドジョウやったでしよ。ドジョウやっても販路確保しないからだめになっちゃった。

ですから、全く無計画、無責任です。政府あるいは県がやるうとしてゐることは、そういう問題に対して要請することは当然だと思ふんです。

日本農業が大体破壊されてきた歴史には、アメリカの余った農産物がどんどん輸入されてきて、日本農業をつぶしてきたというのは明らかな歴史的事実なんです。結局これからシェースとかオレンジとかそういうものが入ってきて、日本のミカンだめになつてきた。酪農でも輸入の牛肉をふやすということを言つています。酪農、酪農といつてだんだんあれておいて、余ったから今度牛を減らせということも出てこないとは限らない。米だつてつくれ、つくれといつて、つくらしておいて、今度は休耕しろ。休耕田つくつたら、休耕田復活するために三千万補助金出してまた米つくらせて、今度は減反だ。何を考へているのか全くわからない。農民はどうしていいか、わからないわけです。

そういう問題に対して、農作物の輸入の自由化というのは、日本農業にとつても重大な問題です。ですから、こういう七つの項目を、私は市長に県や国に対してこういう問題があるんだから、転作を進めるには、こういう条件を整備してくれなければ困るんだという要請をする必要があるんじゃないかということを言つたわけです。そうしたら、市長の答弁は、減反を返上する考えは

ない。農民はそんなことを言つてないですよ。その点を市長は国や県に向かつて要請するのかどうかを重ねて質問したいわけです。都市計画税の問題も非常に重要なのは評価額の問題ですが、評価額に課税するのを、市長はそういうふうに見ていますが、これは価格の問題についてはっきりいつてゐるわけですよ。

これは、都市計画法五条でもいつてますし、税法の中でもいつてますが「都市計画法第五条の規定により都市計画区域として指定されたもののうち市街化区域内に所在する土地及び家屋に対して、その価格を課税標準として」その所有者にかけてもいいといふことになつてゐるんです。けれども、二項で「前項の価格とは当該土地又は家屋に係る固定資産税の課税標準となるべき価格をいふ」と、はっきり課税標準価格をいつてゐるんですよ。いいですか、市長は考へ違ひではないんですか。

私は、そういう点で市の方から資料ももらつていますが、これは館山字東上の千百九十九の三の例を挙げますと、固定資産税の評価額は四十七年に八十三万一千九百九十九円、課税標準価格が三十六万四千四百四十円、課税標準価格よりも評価額の方が三倍なんです。これは四十七年。四十八年は倍に評価額が上つたときですから、評価額が百六十六万一千八百八円に対して、課税標準額は三十七万二千六百一十一円なんです。約四・五倍の差があるわけです。当然これは地方税法でいつても標準価格にかける税金、その百分の〇・二%、ところが、これは問題ですよ。こういうことをやつたら、この税金を返しますか。これは行政訴訟を起こしても對抗できない問題ですよ。それをどういふふうにお考へになつてゐるのか、お伺いしたいと思います。



それから、都市計画税の三十一年から五十一年までの資料を出してもらいましたが、税率が百分の〇・一のときは、三十一年度は〇・一なんです。三十九年に百分の〇・二に税率が変わっています。この三十九年以前の都市計画というのは、非常に固定資産税かける評価が安かったために少ないわけですよ。税収の方がしかし、やる事業がたぐさんあった。その当時の計画は一体どういうものであったか、計画があっても実施していけば仕事が多くなるんですよ。だから税金の方が多くなければいけないわけでしょう。実施していけば、計画が済んでいけば、しかし、新しいものが加わってくればまたふえるけれども、最近の状況を見ると、四十八年に評価額はさっき言ったように上ったから、大体歳入面では倍になっています。四十七年四千五百万円ぐらいだったのが八千百万の税収になってるわけです。しかし、事業の方は見ても六千六百万円、かなり二千万円、千四百万円ぐらいが事業よりも収入の方が多いということになって、目的税ですから、四十九年は八千七百万円に対して、事業の方が五千四百万、三千三百万円税収の方が多いわけです。目的税の本質からいって、やっぱり仕事に見合ったようにしていけば、むしろ都市計画がだんだん進めば税金の方が減っていくかなければいけないでしょう。新しい問題が入ってくれば別ですけども、そういうことでは非常にここに問題がある。

それから、さっき言った課税標準価格の問題でも、課税価格の問題でも非常に問題がある。

それから、公園費の中に谷藤原の運動公園の三億三百万円が入ってきておる。これは当然財産収入として入れて、新しく都市計

画事業としてやるならば、八億円の負担を公園費の中に毎年何千万円か入ってくると思いますが、そういうことを入れていくのが当然なんです。三億三百万入ってくれば税収でまかないきれない。目的税である都市計画税では。

それから、運動公園のほかに、中央公園の土地を公社に売ってそれを市が引き受けたというよりなことで、中央公園はもともと市有地なんです。それを市の財政のやりくりで結局公社に売ったというよりな形で金が入って温水プールをつくったわけです。

こういうやりくりでやったものを公園費の中に入れていいかどうか。これも問題があるわけですよ。財政措置すべきですよ。財産収入として。

これから、中央公園はかなりできていますから、事業があればそれは事業費として入れていいと思う。そこらの問題がまことにあやふやなんです。さっき経過を聞いたんですけども、計画性ですよ。鶴山市の立地条件をどう見ているのか、観光との関係はどう見ているのか。そこにはどういう都市計画をやったらいいいのかという総合的なものから計画が出ていないから、こういうことになると思うんです。そういう点、これから検討される用意があるのか。おそらく時間が短かいから、この時間の中でできない問題は当初予算がありますから、そういう中でも詰めていきたいと思うんですが、その問題も相当重要な問題でありますから、再答弁をお願いしたいと思います。

それから、水洗便所の問題です。これははっきりいって届出制なんです。許可制ではないんです。そうして、事前協議と書えばどういふものをつくるのか、それで安全なのか。要するに、

公害が起るか、起らないか。そういうようなことを事前協議で、こういう浄化槽なら取りつけて、排水路もこうあるからいいだろうということ認めれば、町内会長に同意書をとる必要はないでしょう。公害がないということをはっきり市が協議をしてつくるわけですから、それでいいはずですよ。ところが、町内会長が認めないといけないことになりますと、最終決定権は町内会長にのちやうわけです。そうでしょう。

これは行政委託とかそういうものがあると思うんですが、どういう規定でやっておりますか、それをお聞きしたわけです。市のやるそういう仕事に対してはいろいろ規定なり、規約なりそういうものをつくらなければいけないんですか。かつてにそういうことを区長に、周囲の環境上、町内会長にそういうことをまかすということは、これは行政的な問題ではないんですか。そういうことをちゃんとはっきりきめたものがなくて、やられていくわけですよ。こういう問題についてこれは問題がある。検討するとはいっても、当然これは区長や町内会長が同意の判を押さなければいけないというようなことは、やめる方向で検討するかどうか。その点を聞きたいと思います。

○市長（半沢良一君） 受益者の負担の問題につきましては、たびたびこの議会で渡辺議員さんの御質問にお答えしたとおりでございます。その考え方には変わりございません。固有事務についても料金を取ってもいいという判例もあるわけでございますのでやはり私は受益者が応分の負担をしていただくというのが正しいんだというふうに考えております。

それから、市債がふえたという問題でございますが、御答弁申

し上げましたとおり、問題は、長期的見通しに立ってその市債が返せる見通しがあるか。それが将来大きな負担になるかどうかというところが問題でございます。館山の場合は先ほど申し上げましたとおり、現在まで公債比率が八％でございますので、きわめて健全な運営だというふうに考えているわけでございます。

運動公園の問題につきましては、もし私が議決したと申し上げましたら、間違いでございまして、訂正をいたしますが、私は議決したと申したつもりはないわけでございまして、議会での大体意向でそういうふうになりましたというふうに理解をいたしていただくわけでございますので、やはり議会の大勢においてそれがきまったというふうに理解をいたしておりますので、そうした意思を尊重するのが後継、前市長のあとを継いだものの責任であるというふうに考えて、この実現に努力をしてきたわけでございます。

それから、農業転作の問題でございましたが、先ほども御答弁申し上げましたように、この問題については農業委員とか、農業協力員とか、各部落に回わりまして、それぞれ御説明を申し上げて納得を得た上で実施をいたす予定でございますので、もしその過程の中で、ただいま渡辺議員さんのおっしゃったような問題が出てくるとすれば、それを取り上げたいというふうに考えております。

○税務課長（斉藤武男君） 都市計画税に関連いたしました評価額の関係でございますけれども、評価額イコール課税評準というのが本則課税のたてまえであるわけでございます。

しかし、四十八年、五十一年これは評価がえの基準年度であったわけでございますが、そういうことで急激な土地の上昇を避け

るために、いわゆる税負担の急激な負担をかけてはまずいという  
ようなことで負担調整というものがあつたわけでございます。い  
わゆる課税標準の特例というものでございます。

その時点で、四十八年の評価額に対する上昇割合、いわゆるこ  
れが一・三倍のものにつきましては五十一年、五十二年、五十三  
年に調整しなさい。四十八年の場合と同じように三年間の間に調  
整しなさいというようなことで、本則課税にもっていくというよ  
うな形でやっているわけでございます。

○衛生課長(石井 謀君) し尿浄化槽の取り扱いにつきまして、  
区長さんなり、町内会長さんからの同意書の件でございますが、  
これはあくまでも県の指導要綱に基づいての関係でいたしている  
わけでございますが、市の関係につきましては、あくまでも市町  
村長の判断する上の関係でございますので、市道側溝は建設課担  
当でございますので、その点十分話し合いをいたしまして、そう  
いうようなことにいたしております。

○議長(吉田勇治郎君) 以上で、申し合わせの時間となりました  
ので御了承願います。

以上で、一八番議員君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時開会といたします。

午前十一時五十四分 休 憩

午後 一時 一分 再 開

○議長(吉田勇治郎君) 午後の出席議員数二十四名、休憩前に引  
き続き会議を開きます。

五番議員黒川平治君。

(五番議員黒川平治君登壇)

○五番(黒川平治君) 私は、今回通告申し上げました諸点に対し  
質問申し上げます。

すでに館山市政に参画して三年、恵まれた郷土を愛する面から  
格調高い半沢市政のもと、人間尊重の理念のもとに明るく住みよ  
い市民生活の環境づくりに微力ながら協力してまいりました。

自主財源の乏しい館山市において、産業的、地理的条件の格差  
のある中で、公平に、円滑に行き届いた行政を行うのは容易なこ  
とではございません。

この大変な行政事情の中で、末端の町内会で行政の事務委託を  
受けて、連絡に、また負担金の徴収に、割り当てるに、行政活動に  
貢献している百五十九人の町内会長または区長さんに年間支給額  
の増額待遇はできないだろうか。これが質問の第一点でございま  
す。

質問の第二点は、農村地帯の農道及び雑排水路整備事業でござ  
います。結論的に申し上げますと、共同施行の形で無料奉仕で  
いわゆる人足作業であるのが農村地帯の現況でございます。

これらの共同施行工事の場合に、資材支給を要求するのでござ  
います。なかなか所管の関係課長を初め係の方々は予算のある、  
なしと、いろいろ名目をつけて回答するのでございますが、この  
点、実質的な面で公共用でございまして、ぜひ有無を言わずに  
要求量だけ増量、幾らでもその工事に即応して支給していただき  
たい。要点はそれでございます。

質問の第三点は、先輩の渡辺議員さんの答弁で了解いたしまし  
たので、質問いたしません。

質問の第四点は、酪農、わが房州においてこの酪農はやはり古

い伝統と長い歴史を持っているのでございます。

いま、酪農は国の農業政策の中の根幹産業の一つとして大きく奨励しているものでございます。水産漁業水域二百海里の規制により、たん白資源の確保は酪農資源に待つほかございません。この大きな役割を持つ酪農は重要な産業の一つでございます。

この酪農が、かつては昭和三十四、五年当時、房州は酪農王国として全国に誇った時代がございます。その房州の酪農の中心地にあったのが本館山でございます。館山の酪農は房州酪農の縮図といっても差し支えなかったでございます。

このもてはやされた時代の酪農がいまどうでございましょう。鴨川よりも、富山よりもずっと少なくなつて、しかし、この酪農はなかなか思うような姿で発展、振興するものではございません。酪農がいまのような姿に定着しつつあることは、実に行政の指導の面で何か欠けたものがなかっただろう。私はそういうふうに考えているのでございます。

まして、この館山市は、すべての酪農に対する立地条件が非常に恵まれておるのでございます。気候、風土の面から農地が高度に利用され、水資源に恵まれて、この恵まれた条件を生かして、貴重な要素を高度に生かして、過去、現在の酪農状況をつぶさに把握して、そして努力、経済能力またその経営者の意欲をよく把握して、これに適合した酪農振興を図っていただきたい。これが第四点でございます。

次に、質問の第五点でございます。国で奨励している酪農が産業公害と申しましょいか、酪農公害が非常に規制されているのでございます。経済的に安定した酪農も、このし尿処理そういう規

制によって、われわれの意欲は経済的に負担が重過ぎるので、意欲をなくしているものでございます。この面で、市でこういう処理施設をするに補助金制度を設けていただくわけにはいかないででしょうか。これをお願い申し上げるのでございます。

質問の六点目は、老朽した藤原のし尿処理場の改善、整備の現状でございます。

すでに、市長の施政方針の中でも非常に苦勞なさっていることはよくわかります。ただし、私は地元の関係でいろいろあそこを通つてみる場合がございます。風の吹き方、あそここの付近に行つたときに深夜を通じてあの臭気公害と申しましょいか、あのおいが車に乗っておつても非常に多くつくのでございます。そういう面を早急に直していただきたいと思うのでございますが、すでに二、三年前から処理量が多くてパンクの寸前であるというように市長さんはおっしゃられておりましたが、自主財源あるいは財源のない館山市でそれを早急に直すこと、大変なことはよくわかります。しかしながら、そのままであるのか、現在少しぐらいは改善、改良されているのか。要点はそれでございます。

最後に、あの処理場に働く方たちの健康管理の問題でございます。道路を歩くときに、通るときに臭気、あれだけの臭気をつく臭気が、果して現場で働く従業員の健康に何か支障がありはしないか。これの一つ私は懸念しているものでございます。

まことに、つじつまの合わないような質問でございましたが、私の要点はすべて細かい名目的な回答は要りません。できるか、できないか。この程度やったというよりな、その程度の備明をお答えて結構でございます。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 黒川議員の御質問にお答えいたします。

行政事務委託の待遇についてでございますが、ご存じのとおり市は市広報及び文書の配布、市通達事項の周知、伝達等を町内会等に委託しており、その事務費として均等二千円、一世帯二百八十円を交付してまいりましたが、今回諸般の情勢を勘案して均等四千円、一世帯三百四十円、平均二六%の引き上げをいたすべく本年度予算に計上してございます。

農村地帯の農道、里道、雑排水路等の環境整備についてという御質問でございますが、農業用施設の整備は農業振興の基本でございます。現在、県営圃場整備事業や市単独の補助事業または原材料の支給により逐次整備が進められておりますが、今後とも受益者の負担を軽減するため、国、県の補助事業の導入を図ってまいる所存でございます。この場合には、地域農家の皆さんと十分協議し、進めてまいりたいと考えております。

国、県の採択基準外の事業につきましても、市としてでき得る限り対応してまいりたいと考えておりまして、今回大幅な予算増を計上いたしているわけでございます。

米の減反問題につきましては、渡辺議員にお答えしましたところでご了承いただきたいと思います。

第四点、酪農振興に対し、市内酪農家に適合した指導計画を立て、市内酪農の振興を図るべきだという御質問でございますが、市の育成牧場において優良な後継牛の育成を図り、乳牛耐用年数の延長、健康な骨格形成等乳牛育成技術の指導センター的効果を図るとともに、酪農振興資金の活用、乳牛共進会の開催等改良意

欲の啓蒙を図り、高生産の乳牛の育成に努めてまいりたいと考えております。

また、粗飼料の確保は、酪農の経営上、最も重要でありますので、水田の基盤整備による土地の高度利用を図る一方、草地造成についても機械力を地域的に組織化し、省力、高生産を進め、酪農経営の安定を図ってまいりたいと考えております。

第五点、酪農公害対策施設に対し、市の補助金を出すようにという御提案でございますが、現在、直接に施設に対する助成は考えておりませんが、現行制度資金の活用と県補助事業を有効に利用できるよう指導してまいりたいと考えております。

第六点、老朽化した谷藤原し尿処理場に対し、改善整備の現況についての御質問でございますが、市のし尿処理対策といたしましては、新しい施設を建設するまでは現施設を何とか維持していかなければならないわけでございますので、改善整備には最大の努力をはらっているところでございます。

最近の大きな整備内容を申し上げますと、昭和五十一年度にガスタンクの建てかえを行い、五十二年度におきましては一次処理施設である消化槽の全面清掃と二次処理施設であります散布床の御影石の交換を実施しております。また、五十三年度におきましても、消化槽のスカムの除去、煙突、破砕機等の取りかえを予定しております。

また、さらに老朽化処理能力不足等悪条件の中で、可能な限り良好な処理を求めるために、職員、技術、姿勢等資力の向上を図りまして、維持管理に万全を期してまいりたいと考えております。職員の健康管理につきましては、人命に関する問題でございます。

すので、十分考慮いたしまして、管理の万全を期したいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○五番（黒川平治君） 私のだいたい伺った第一点は、区長、町内会長に俸給と申しましょうか、年俸と申しましょうか、謝礼と申しましょうか、それを現在支給されているよりも、この五十三年度予算書に上ったもので計算いたしますと、これでも三万なにがしかになったと思いますが、三万八千七百九十円、そのうちに市の広報等の料金が入ってようでございますが、それを全額支給しても、少なくとも十万近い区長さんには年俸を支払っても私はあえて文句はないと考えているものでございます。何とか、十万は高過ぎても、少しぐらいの差を近く支払うような計画は立たないでございましょうか。百五十九人とか申しましたが、それを一つぜひ私お願いしたいのでございます。

区長さんのいまの社会情勢の中で、非常に徴収、割り当てであるいは連絡、非常に多端な用事がございまして、私どもが頼むのも気の毒のような場合がたまにございまして、ぜひこれは少なくとも五、六万ぐらいはぜひでも支払うような方法はとれないものでしょうか。それを一つ特別にお願い申し上げるのでございます。

その次に、私の質問したのは、農村地帯の林道、農道あるいは雑排水の資材交付の面でございます。目的は資材を出していただくことにより、私どもは人足的な共同作業でこれができるのでございます。工事費一切を含むと人件費というものが非常にかさんで大きな工事費になって、その予算を取るには大変なことだ。館山市の財源を考えた上で、少なくとも少ない金を高度に利用する

ために資材を交付していただきたい。これはやはり工事内容に即応して、あまりむだな労力、時間をとらないように、区長あるいは農家組合長が電話一本でお願いしても、すぐ一兩日中に届くように事務的な配慮が願いたいのでございます。

第三点は、渡辺議員の面でわかりましたので、この質問はしません。

それから、酪農振興の面でございますが、私は豊房の育成牧場のことを聞いたのはございませぬ。館山市の酪農がかって非常に全盛を誇った時代がございまして。それが何でこういふふうな立ち遅れた館山市の酪農の現在の姿であろうか、それを常に考えているものでございます。それはやはり行政的な指導が行き届かなかったということには、これは間違いないと思います。

昭和三十五、六年全共、その当時には、千葉県代表牛の六頭これが館山市から出品されている。統計的な数字が語っております。千葉県下の十二頭分の六頭、二分の一、半分が館山市で取った時代がございました。現在はそういうような酪農の姿は本当に見られなくなりまして。

これもやはり、なぜ酪農がそういうふうに関心したか、これは館山市はほかの地区と違って、山あり、川あり、海あり、こういう落差を利用して、しかも気候、風土に恵まれて、そのために農地の高度の利用ができる。狭小な農地であっても、広範な北海道や、あるいは九州のようなああいふ広い土地を持たなくても、それにかわる利用度が、耕地の利用ができる。そういうことでございまして。ぜひそういうことをいま一度検討、研究なさり、いまの酪農はほかの農業の中でもわりあい安定した農業だと私は考えて常に

それを専業としているものでございます。

酪農は一べんすたれると牛を飼う技術というものがとだえ、その技術を会得するのが、これが並み大抵ではございません。いまの館山市の酪農従業者、携わっている方たちは長い伝統と、そうして熱心に飼われたあるいは申し送られた牛を飼う技術にまっさっている方ばかりでございます。

ところが、後継者がなくなることは、こういう貴重な技術が失われることにもなります。どうか、この点御配慮願ひまして、ぜひ酪農振興のためにお願い申し上げます。

また、公害でございますが、これは国の制度に準じた規格なら国、県からの助成があると思います。館山市内ではわりあいにな細かな酪農が多い。この実情に合わして国の制度に並行したような館山地区独特の実情に合わして何とか助成するような方法はないのでございましょうか。それをお伺いするのでございます。

藤原のし尿処理場、この点はよくわかります。この点は決して無理な質問はいたしません。これはだれがやってみてもきれいなものではございません。あそこに見に行っても、事務所に行ってお茶をいただいても、あまりうまくいだけないような現状でございます。これをきれいにやれ、自分の家庭の便所を見てもよくわかります。こわれたからこれを修復しろ、それをだれがやるんだ。便所掃除するのいやなものでございます。いかに職業であっても、そういうような強要したことは決して要望いたしません。これはよくわかります。ぜひ一つ。

〇庶務課長（綱島憲治君） 町内会長さん等の委託費の提案でございますが、今回は平均二六%の引き上げをすべくお願いしている

わけでございますが、私どもの方の考え方いたしますと、一応事務費というふうな考え方で現在いるわけでございます。

年俸というふうなことになりますと、やはりほかとの関連も出てきますし、また特別職というふうなものにもなってくるわけで、予算に応じ適当な値上げは当然考慮されべきでございまして、けれども、いずれにしても、これは年俸というふうな問題になりますと、もう少し検討せざるを得ない。こんなふうに考えます。しかし、物価の上昇あるいは予算に対応する事務費の上昇ということは当然考えなくてはいけない。こういうふうに考えております。

〇農水産課長（佐野甲子郎君） 第二点目の資材の交付につきましては、資材交付の申請を受けましてから、現場を確認して交付するようにいたしておりますので、多少時間をいただきたいと考えております。

次に、第四回の酪農振興につきましては、今後畜産奨励委員会と十分協議をいたしまして、ただいまの御意見を十分反映させるようにいたしたいと考えております。

次に、五番目の酪農公害対策でございますが、御趣旨のような補助事業といたしまして、五十三年度におきまして畜産公害対策事業として県の三〇%、市の二〇%の事業を計上しておりますので、御了解いただきたいと思います。

〇五番（黒川平治君） 第一点の特別職、区長さんにそういう名目がつくと大変支障がほかにできて困る。こういうようなことでございますが、それは名目はいかようにもつけられると私は考えております。要は、実質的な金額でございます。予算が許すならば

増額して支払うような方法を工夫していただきたい。

二番目の農道でございますが、確かに事務的な準備を経なければいけない。これはよくわかります。しかし、私のいうのはそれ一つありましたが、必要量だけ、予算がないとか、ほかにまだ申し込みがあるとか、一カ所とかそういうより細かい、うるさいようなことをなくして、簡単に現地を見にきたら、それに必要なだけの量を即座に支給するような御手配をしていただきたい。そういうことでございます。

第四点、五点でございます。これは酪農に関連するものでございまして、いまし尿処理方法として無理な質問かもしれませんがどういう機種、どういう処理方法がございしますか。酪農公害に対して、もしおわかりでしたら、わからなかったら結構でございます。私も専門でございしますから、もし、わかりましたら、大変恐縮でございしますが、ちょっと御答弁願います。

○農水産課長（佐野甲子郎君） 二番目の資材の交付でございします。これは必要量だけ全部というのも予算関係にも、積算につきましても困難でございしますので、やはり五十三年度は七万円限度でお願いしたい。このように考えております。

○五番（黒川平治君） 七万限度というのはいつ頃制定、きまったものでございしますか、おとしですか、さきおとしですか、去年ですか。お伺いいたします。

○農水産課長（佐野甲子郎君） お答えいたします。

四十九年から七万円で支給しております。

○五番（黒川平治君） 四十九年から今年までの原料、資材これは値上り、金額は同じでも実質的な、大変申しわけないけれども、

内容だれが考えても四十九年くらいまで倍、三倍になっている。

そうすると、実質的な内容は三分の一、そういうことでございします。それでも現品支給を受ける地区では、そのほかに労力というものが無料奉仕をされて整備されているのでございします。四十九年の七万、失礼な形容かもしれませんが、自分の俸給から比較してみてもこれはよくおわかりのことと思います。家庭の生活費と、比較対象になるものはたくさんございしますが、四十九年と五十二年度の原材料費はどの程度の値上りをしている。金額の内容、実質的にどのぐらいの利用価値がありますか、それを一つ。もう一べんちょっと。

○農水産課長（佐野甲子郎君） この七万円の資材交付につきましては、軽微な本当に応急的なところをやるように考えておるわけでございます。そのほか共同施行といましては、三〇％以内の補助事業で実施している事業もございします。ただいま申し上げました資材に災害予算もございまして、本年度と申し上げますが、五十三年度では前年より大幅にふやしていただいております。お願いする予定になっております。

○五番（黒川平治君） これはいま二度、三度繰り返して質問することは大変失礼になりますから、それで結構でございしますが、この点、要望しておきます。七万この金額で何ができますか。いま一つ、この資材を支給される地区は無料奉仕で工事をする。こういう奉仕的な面に対して、これはよくお考えになっていただきたいのでございします。そうして農村地区は整備していかなかったらいつになっても雨が降る、排水の面が悪い。ひと雨ごとに災害をもってくる。早く資材が支給されれば、少しの復旧で直る。これ



が遅れたために雨が降る、またということになると、非常に大きな災害になる。

私は、館山市の財源が非常に少ないということから、それを大事にやはり少しずつでも大切に高度に利用しようと、生かして使おうと、こういうふうな考えから、そういう私は資材交付の面を過去三年、以後土木課でも、農産課でもそういう道路の整備はそういうふうにしなさい、してください。私は常に申し上げているのでございます。どうか、それを要望して。

それと、七万、これは少し増額をしていただきたいのでございます。七万で、四十九年の七万といまの七万では、先ほど申し上げましたとおり、お考えになればわかりのことと思います。私の質問は、これをもって終ります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、五番議員君の質問を終わります。

次、一五番議員辻田 実君。

（一五番議員辻田 実君登壇）（拍手）

○一五番（辻田 実君） 六点について御質問を申し上げたいと思います。

まず、館山市政の根本問題についてお伺いをいたしたいと思えます。第一に、観光開発についてお伺いをいたしたいと存じます。館山市の観光は、歴史的に見ましても、地理的に見ましても、館山市の大きな柱でございます。しかし、具体的に館山市の観光とは何であるかと問われると非常に困る場合がございます。これは観光の決定的なポイントが漠然としているからであろうと思われるのでございます。

たとえば、鏡ヶ浦の夕映えは、私が十年前に見たマニラ湾の夕

映に匹敵するほど美しいものだというふうに思われます。したがって、市の宣伝ポスター、宣伝はがきには多くこの夕映えの風景が採用されております。

そうして、鏡ヶ浦を見るときに、どうしても棧橋が必要であり棧橋がないと何か間が抜けてしまふのが現実でございます。それほど棧橋は目立つものでございます。その目立つ棧橋の先端が北条、館山橋とともに破損して数年放置されておりますことは、館山の観光からみて非常に大きなマイナスだと思います。過去数回にわたってこの点について質問してまいりましたが、いまだに放置されたままになっておりますけれども、この問題をどのようにをされるのか、再度お伺いいたす次第でございます。

次に、館山市観光協会の再建について質問をいたします。

昨年、観光協会の運営と役員選出をめぐる、分裂を起こしかけたのを契機に、市長が直接再建に乗り出したところでございます。しかし、これまでの経過と現状はどのようなになっておられるのか、一部報道等がされておりますけれども、この状況を詳しく御説明をお伺いしたいと思っております。

さらに、館山市の観光は交通の拠点ではありまするが、宿泊施設については隣町の白浜に比べますと非常に数が少ないのであります。房州観光の大半の人たちは白浜町の旅館に宿泊する現況でございます。しかし、白浜町は国鉄館山駅と国道一二七号線が入口になっておりまして、そうして何としてもこの館山市を通過しないと白浜町には入れないという地理的な条件がございます。

そこで、観光を重点に考えるならば、館山市と白浜町が一体となって行くことによって、大きな観光的成果が上るものと思われ

るのでございます。したがって、この観点から、白浜町との町村合併を再度推進する意向はないのでしょいか、お尋ねする次第でございます。

第二番目に、国道一二七号線バイパスについてお伺いをいたします。この問題については三年來の懸案となっております。

私は、これまでバイパスは都市の再開発によって消化すること、房総縦断道構想として実現されるべきとの見解に立って質問をしてまいりましたが、しかし、市長はこれに対し、住民サイドに立って国と調整を図りながら促進していきたいとの見解を示してきております。

そこで、再度昨年の議会で質問をした東京湾横断道路の建設計画と館山市の将来像についての検討をいかにその後なされたのか、お伺いをいたしたいと思います。

また、成田空港の開港を間近にひかえて交通アクセスの問題、さらには公共投資の国の施策からしても、成田、富津の高速道路計画は急速に進むことが予想されます。そこで、この高速道路に館山市から一直線に結ぶ中央バイパス線を促進する意思是、市長におかれましてお持ちになりませんか、お伺いをする次第でございます。

このバイパスを実現させることができるならば、現在予定されているバイパス線は大幅に変更し、富浦、船形バイパスで済むのではないのでしょうか。

さらに、私は新しい構想として提案をいたしたいと思うのでございます。それは、館山市の発展に何といっても必要なのは水でございます。半島の先端に位置する館山市は水不足がアキレス踵で

ございます。したがって、この水問題の解決は横岡山系の水をいかに利用するのがマクロの問題としてあるわけでございます。都市工学的にも、水を求めて人間が集まり、都市が形成されることは、古代から現在まで不変の原則でございます。

したがって、嶺岡、丸山、三芳、館山の水系を軸としたところの産業開発を考えるならば、三芳村、丸山町との合併を考えるべきだと思っております。けれども、市長はいかがででしょうか。広域行政の充実の面からも、合併の促進の面からも、一二七号線バイパス以上に住民的サイドに立った政策だと思われませんが、御一考を願えないものでしょうか。お伺いをいたす次第でございます。

第三番目に、館山駅と商店街の再開発についてお伺いをいたします。

現在、館山市の商店はジャスコ進出で大きな話題を呼んでおります。その原因は、ジャスコ進出で売り上げに大きな影響を館山市の商店が招くことが予想されるからだろうと思われれます。だとすれば、ジャスコに負けない条件と経営をすれば、この問題は解決されるはずでございます。そのためには、商店街の再開発がどうしても絶対的条件として必要だと思われるのでございます。

私は、一昨年の議会で商店街の再開発について質問をしてきたところでございます。市長は「市民の理解と資金の面ですぐに実現できるものではございませんが、検討してまいる所存でございます。」と答弁されております。この二年間にどのような進展をみたのか、お伺いをいたしたいと思うのでございます。

また、国鉄館山駅の改修については、昭和四十八年だと思いま

するが、期成会ができて館山市は国鉄に対して陳情をしてきたところでございます。一昨年の議会で経過については若干の答弁がありました。駅前商店街の再開発には、まず駅の改築が最優先されるものと思われるのでございますが、この館山駅舎の改修についてはどのような現況にあるのか、お伺いをいたします。

第四番目に、農業政策についてお伺いをいたします。この問題については先ほど来、質問がなされておりますが、現在農家において最も大きな問題は、水田利用再編成対策による減反問題であると思われまゝ。この減反は、戦後農業政策では農地改革にも匹敵する大きな問題であると思われるのでございます。

市長は「国の方針に従い、農業生産者及び関係農業団体と十分協議の上、これが対策に処してまいりたいと考えておりますが」と答えられております。国の方針に従った転換の具体的な内容について、規模、内容、種別、時期等について再度お伺いをしたいのでございます。

次に、農業政策の転換をする中で、有機質農業の振興を図り、処理場の建設と合わせて検討する考えはないでしょうか、お伺いをいたします。

すなわち、化学肥料を中心にしたところの無機質農産物はP・O・Bを初め大きな公害による恐怖を国民に与えております。こうした状況の中で、堆肥を中心にした有機質農産物は健康食品として脚光を浴びつつあります。その上、農地の疲弊から農地を守る観点からも有機質肥料の需要は非常に高まってきたてきております。このように一石二鳥、三鳥の効果を持つ有機質農業の奨励をする政策

を、し尿処理場を中心にして展開させることはできないものでしょうか。

これまで、し尿処理場の建設につきましては、多くの反対する人がいるということが言われておりますけれども、こうした問題も解消するであろうし、むしろ農家を初め消費者に歓迎されるものと思われまゝ。このことが館山市の最大の懸案であるし尿処理場の解決につながるものと思われまゝですが、いかがなものでしょうか。

次に、本年の施政方針の第四項目の柱に、農家の参加による村ぐるみ農業という新しい言葉が出ております。この村ぐるみ農業という言葉は、地方自治体の中における農業政策として具体的にどのような内容のものであるのか。新しい言葉でございまして、具体的な御説明をお願いしたいと思うものでございます。

第五番目に、町村合併についてお伺いをいたします。

町村合併については、館山市においては十数年来の懸案でございまして。前本間市長は白浜町、三芳村、富浦町等に対して合併の打診をいたしてきたところでございます。しかし、市民の願望と異なり、現実には合併は進んでおりませんことは、まことに残念でございまして。

広域圏事業により消防等については成果を上げておりますが、編入、産業、経済の面においても並行して進めていかななくてはならないものと思われまゝ。館山市史にもあるように、昔から安房一国の自治と経済が行われてきたのでございます。最近の都市断断でも館山市を中心とした商業圏も館山市にとどまらず、広く町村にまたがっております。このことは周知のとおりでございます。

旧制中学さらに新制高校においても同じことが言えます。

そこで、商政圏、産業圏、観光行政圏、学校圏から考えて、実際に即した町村合併を現在市長はどのように考えているのか、所信を改めて伺いをいたしたいのでございます。

また、学校には学校の適正規模がございまして、自治体には自治体の適正規模がございまして、館山市の地理的条件、歴史的條件からみて、館山市の十萬都市ということとをどのように現在お考えになられておりますのか、再度、所信をお伺いいたします。

第六番目に、雇用促進と地場産業の育成について伺いをいたします。

オイルショックに続いて、最近の円高による企業の倒産は戦後最大の規模になり、昨年度だけで一千万以上の負債をかかえて倒産した会社は一万八千件にも達しております。本年度はさらに急速な勢いで増加していると報道されておるところでございます。

失業者も職安にあがってきているものだけでも、全国で百万人を超え、減少する傾向はほとんど見られません。これに加えて潜在失業者も百万を越えるだろうと報道されておるところでございます。館山市におきましますところの職安の求人倍率も〇・五から七ぐらいにとどまり、雇用状況は悪化の一途をたどっております。

そこで、館山市において雇用促進対策を市の施策として早急に具体化される考えはないものでしょうか、お伺いをいたす次第でございます。

また、館山市では数少ない地場産業において、円高、不況による受注が停滞して倒産寸前の会社が幾つかあると伝えられております。これらに対して受注確保等に市の早急な対策は考えられな

いものでしょうか。

昨年暮、隣町の菅沼鉄工所が倒産いたしました。七十六名の従業員は会社ではございますが、中小企業の取引債権者が町内に百二十数件もあると言われております。現在、富士デューセルは受注が減少し、非常に苦しい経営にあると伝えられております。この会社の従業員は八百名を超えております。市に関連する企業は膨大な数に上ることが予想されるのでございます。

ジャスコの進出による商店の保護も大切な問題でございます。しかし、第二次産業の育成、保護に対しても、もう少し力を入れて緊急対策を立てられないものでしょうか、お伺いをいたしまして、質問を終わりたいと思います。（拍手）

（市長半沢良一君登壇）

〇市長（半沢良一君） 辻田議員の御質問にお答えいたします。

質問の大きな第一点は、観光開発についてでございますが、その小さな一は、桟橋の改修についてでございます。桟橋の維持管理につきましては常々努力をいたしているわけでございますけれども、何分にも木造のため損傷も激しく、特に先端は御指摘のようには北条、館山両桟橋とも季節風による波浪のためにこわされそのまゝになっておりますので、北条桟橋につきましては、昭和五十三年度で先端のこわれた部分を改修する計画をいたしております。また、館山桟橋につきましては、先端のこわれた部分を改修するためには多額の経費を必要といたしますので、本年度は先端のサクまでの部分について補修し、危険のないようにいたしたいと考えております。

小さな第二点、観光協会の再建の問題でございますが、昨年五

月六日開催の観光協合理事会において旅館組合の脱会が承認されるに及び、五月二十五日開催の定例総会及び六月十日開催の臨時総会において役員の選任が得られず、そのため、収拾を私に一任され、事実上観光協会は解散状態におかれた次第であります。

そのような状況の中で、協会再建の基本構想を規約の改正に置きました。会員の構成は観光事業に直接関係のある事実を営むものの、及び団体とし、宿泊関係については会費を約倍額、商店街については会費の軽減を図ることを骨子とし、それぞれ関係団体との話し合いを持ちまして、十二月二十五日の臨時総会を開催した次第であります。

商店街については直接観光事業を営む団体でないので、賛助会員であるべきとの意見もありましたので、調整期間をおきまして再度十二月二十八日総会に臨んだ次第であります。が、協調が得られず、やむを得ず次期総会までの間に話し合いを進めることで再発足の運びとなった次第であります。

このような経過を経ての再発足でありますので、本年度は事業計画の第一目標として、組織の充実を掲げ、商店街については今後とも協調が得られるよう、話し合いを進めてまいる所存でございます。

小さな第三点、白浜町との合併についてでございますが、観光の観点から白浜町との合併は将来検討すべき問題でございます。ところが、合併ということは、あくまで個々の地域住民の自主性によってきめられるべき問題であらうと考えております。

質問の大きな第二点は、国道一二七号バイパスについてでございますが、その小さな一点、東京湾横断道路の建設計画と館山市

についてという御質問でございますが、東京湾横断道路は、東京湾岸環状道路と東京湾横断橋と三者一体となって、その相乗効果を発揮し、その影響、効果は、日本列島の動脈からはずれていた房総をこの計画によって太平洋ベルトにしっかりと位置づけるとともに、また東京、神奈川の都市機能、レクリエーション、観光等房総半島に誘導するものであり、館山市も従来の袋小路性を脱却し、首都圏域にとって欠くことのできない生活空間として位置づけられるものと考えております。

次に、成田空港より富津市までの高速道路計画は、成田国際空港が千葉県にもたらす画期的飛躍に連動する交通網であり、前段の効果と相まって、館山市への影響も多大なものがあると信じております。

以上から考察いたしましても、かつて論議を呼びました背骨道路的な高速道路、辻田議員の言われる中央バイパスのようなものが、今後の南房総開発に必要な条件となることは明らかであるかと存じます。

しかしながら、日に日に激増するモータリゼーションは、現状において国道一二七号線を事実上麻痺状態にいたしておりますので、当面はこの問題を早急に解決いたし、館山市を中心とした生活圏、経済圏の向上に資したいと考えております。

次に、三芳村、丸山町の合併でございますが、これについても御意見を十分拝聴いたしました。が、先ほども申し上げましたとおり、それぞれの住民の自主性によってこれを進めてまいるべきものだと思っております。

大きな第三点、館山駅と商店街の再開発についてでございます

が、商店街の再開発でございますが、商店街が厳しい経済変化の中で、より以上の客層を確保し、安定経営への基礎を充実するためには、消費者サイドに立った魅力ある商店街への近代化を図らなければならぬことは御指摘のとおりでございますが、現在の商店街特に駅前を中心としての商店街は、道路あるいは店舗形態商店街環境等改善を図らなければならない問題が山積をいたしております。よりよい消費者サービスを図るとともに、大型店の出店に対する対策と合わせ、そのような問題を検討し、解決しなければならぬと思います。

現在、アンケートの何一つとりましても、容易に解決できる問題はございませんけれども、常に申し上げておりますように、商店の方々がそれぞれ自身の問題として取り組む姿勢が最大の必要条件でございます。それが基本であろうと考えます。

今後、商工会議所あるいは商店会連合会等とも十分連絡をとり商業近代化への策定等について話し合いを進めていきたいと思っております。

館山駅の改築計画でございますが、昭和四十八年三月に館山駅舎建設期成促進協議会設立準備会が結成され、同年六月改築問題につきまして国鉄を初め関係者との話し合いが持たれたのでございますが、橋上駅の場合、当時の金額として約二億円の財源を必要とし、全額地元負担ということでございまして、国鉄としては内房線の複線化に伴う改築以外は考えられないということでございました。したがって、約二億円の地元負担はとうていできかねましたので、この問題も中断され、現在に及んでいる次第でございますが、今後は駅舎改築も含めて君津駅以南の内房線の複線化

実現のため努力いたしたいと考えております。

第四点、農業政策についてでございますが、その小さな一点は当市における水田利用再編成対策の内容と経過についてということでございますが、渡辺議員にお答えいたしましたとおりでございますけれども、この問題につきましては、転作作物の選定や転作による労働力の関係等いろいろと御意見もございしますが、この転作そのものは国の方針でもあり、やむを得ないものと考えております。

内容につきましては、農政審議会並びに農業諸団体の意見を聞き、五十二年度の水稲共済引き受け面積と、五十二年度の水田転作実績を目標配分面積の基礎資料といたし、圃場整備事業の実施地区を勘案して、仮配分の内示をし、部落内での調整を図るようお願いをいたしております。現在、数量的にお示しできるような段階には至っておりません。

小さな第二点、有機質農業の振興とし尿処理場の建設についてでございますが、有機質農業の振興とし尿処理場の建設につきましては、汚泥を有機質肥料として有効利用する方法は過去に検討されたこともありましたが、手軽な化学肥料が多量に使用されるようになったため、自然に消滅した経緯がございます。

現在、資源の有効利用、無機質肥料の多量施肥による地力の減退等によって見直すべき時期にあると言われております。有機質肥料は作物を健全に育てる土壌をつくるために重要でございますので、今後汚泥の肥料化については衛生課と協議をいたしまして検討してまいりたいと考えております。

小さな第三点、村ぐるみ農業の内容についての御質問でございます

ますが、現在農村社会は兼業化とともに混雑化、多様化が進行する過程でございまして、近隣意識の衰退、共同意識の減退等により、かつてのようなまとまりが崩壊しつつあります。したがって農業者の意向が一つとなって実行に移されにくいのが現状であります。

このような農村を取り巻く諸問題の解決に当たっては、画一的上意下達の形で行うのではなく、すべての農家の参加による座談会等話し合いの中で総意をまとめ、村の改善構想を作成し、これを通じて関係機関と連携、調整を図り、事業の推進を図ることを内容としたしていただくでございます。

大きな第五点、町村合併についてでございますが、第一点は十萬都市構想についてという御質問でございますが、近隣町村との合併により人口がふえることが必ずしも都市の発展につながると思いませんし、生活と生産の両機能がマッチしたものでなければならぬと考えます。そうしたことから、必ずしも十萬都市ということにはこだわらないつもりでございます。

第二点、館山市を中心にした経済圏と町村合併についてという御質問でございますが、館山市を中心とした経済圏内の町村については、現在安房郡市広域市町村圏事務組合として、日常社会生活圏の市町村が協力し、地域の総合的、計画的な経営を行い、地域住民の行政需要にこたえております。

先ほども申し上げましたとおり、各町村の合併機運が高まり、また住民もそれを欲する場合には合併ということになりますけれども、それはあくまで各町村の住民の自主性によってきめられるべき問題だというふうに考えております。

大きな第六点は、雇用促進と地場産業の育成ということでございますが、市の段階において雇用促進を図れないかという御質問でございますが、市町村段階で雇用促進を図るということはなかなか困難な問題でございます。安定所等と連絡をとりながら、御要望があればこれにこたえていきたいというふうに考えます。

また、地場産業の育成ということでございますが、これも大変日本の国全体の問題でございまして、市町村独自ではなかなか具体的には困難な問題だと思いますが、現在の制度の中で、融資あるいは国や県の制度の活用等可能な範囲での御協力を申し上げていきたいと、そういうふうに考えております。

以上、答弁を終わります。

○市長（半沢良一君） ただいま、衛生課と協議と申し上げましたけれども、衛生課に検討いたさせて、研究いたしたいと思っております。

○一五番（辻田 実君） まず最初に、観光問題について二、三再質問をいたしたいと思っております。

非常に観光について力を入れておるわけでございます。ここで伺いたいことは、観光協会の再建に当たって、また市長自身館山市の観光のポイントをどこに置いておるのか。館山市の観光と一般的に言われる場合に幾つか挙げられると思うわけでございますけれども、市長さんは館山市の観光といった場合にどこどこを挙げるのか。とにかく三つほど例を挙げて、重点的なものについて例を挙げていただきたいと思います。

○市長（半沢良一君） 具体的にどこということでございますが、何と申ししましても、基本的には夏季の海水浴場でございますし、



また冬場における花、それから気候が温暖であることによる四季を通じて花があるということでございます。海岸線、自然な風景、そうしたものがポイントになるんだというふうに考えております。〇一五番（辻田 実君）　そういう抽象的なことしかなんじやないかと実際の、それでは夏の海水浴場とまず第一に挙げられるわけでございますけれども、これに対して、それでは公共下水道と生活排水等の流れ、先ほども渡辺議員が質問されましたように水洗便所のたれ流し、こういうような問題が汐入川を通じて相当数出ておりまして、年々ひどくなっておる。こういうようなことについて具体的な施策というのと、減菌装置ぐらいのもの。相当な廃液については館山湾に汚泥が山積しているのが海に入ればすぐわかるわけでございますが、そういう点は納得いかないんじゃないか。

花畑といってもいろいろ問題がある。ポピーランドということもあるわけでございますが、いつ、どこということになると、なかなかむずかしい点があるんじゃないか。

私は、ここでもって、館山市は観光ということを基調にしておれば、観光の見どころはどこかということがなければ、なかなかむずかしいんじゃないか。私も、館山観光にいらっしゃい。温暖で結構ですよ。冬花が咲いていますよ。夏は海水浴ですよ。こういう程度。具体的に夏の海水浴にきて海水浴の施設、それから冬館山にきて花が具体的にどのよう咲いておって、それがどのような形でもって花摘みなり、そういうものが行われているか。先般の新聞等によりますと、館山市が経営しておりますところのポピーについても、観光協会に入っていない団体等については配

布しないというような状況があったわけでございますが、これらについてはどのように考えておるのか。

二点質問します。一つは、館山市はそういう一つの観光、たとえば城山城とか、海に行けば何があったという決め手になる、行ってすぐ具体的にああそうだった、こういう印象に残る、こういうものを選定し、つくることは考えておられないのかどうか。

それと、いま言ったポピーの花摘みの券の配布について、一部報道されたような問題についてどのような考えであるのか、この二点について御質問いたしたいと思います。

〇市長（半沢良一君）　観光の決め手になる、目玉になるような施設をつくる意思はないかということでございますが、観光というのは娯楽施設、レジャー施設そういうものをつくることだけが観光ではなからう。館山の場合は自然のよさを生かした観光の方向であるべきだというふうに考えております。しかし、そうしたことも含めて本年度はコンサルタントに依頼をいたしまして、検討いたしたいというふうに考えております。

ポピーの件につきましては、観光課長より答弁させます。

〇商工観光課長（中村正雄君）　花摘み園の關係でございますが、この冬から春にかけての観光客に対します一つの誘致策として考えられているわけでございますが、毎年、布沼の農家の方にお願いたしまして、ポピー二千五百ヘーベについての植栽を行いまして、時期がまいりました時点で、館山市に泊まりましたお客様に対して無料サービスをいたしているわけでございます。

ただ、実際に花摘みができる時期からの間、あそこに電話の設置あるいはショッピングカーの設置、それに毎日お客様に対す



いろいろサービスについての当番の方、こういった方たちについては旅館組合あるいは民宿組合の、要するに宿泊関係の方に委託をお願いしておたわけでございます。

しかし、市で植栽をいたしております。そういう団体に加盟していない方たちでも、そういう該当の宿泊関係にも摘ませてやるべきではないかということで、観光協会において印刷をいたしました花の券を組合に入らないところに市の方でお待ちいたしまして、利用方についての旅館あるいは民宿の宿泊関係の方たちとそういう毎日の当番とか、いろいろそういう金額の負担あるいは当番に出たいただくというような条件についての話し合いをして同じように利用してもらいたいということをお願いしたわけでございますが、たまたまどうしても宿泊関係団体との話し合いがつかないというようなことでございましたので、お客さまを現場につれて行って、現場でそういう問題でお客さまに迷惑をかけてはいけないということで、やむを得ず券を引き上げざるを得なかったということでございます。

〇一五番（辻田 実君） 私、館山市のモットーは親切だと思っております。観光協会そのものが私は閉鎖的ではないか、協会自身のそういう運営されている云々ということでもって、市の予算また市の補助しているそういうものについて、観光協会に入っていないところがそういうことをやってずるいという面があったら、そういうものを施してやって、そうして入ってきなさいよという愛の手を伸べるというのが館山市の親切運動のモットーではないか。閉鎖的に、入っていないからあんただめだという、そういう言いぐさが市の行政、市の予算を使う中で行われている

のかどうか。これは基本的姿勢の問題であると思うのでございます。

これと関連して、白浜との合併云々は自主的な問題だということと簡単に済まされておりますけれども、白浜から見れば館山市はどうしても玄関、館山を通らなければ行けない。千倉を回わって裏から入るということはありませんけれども、とにかく館山から入る。この場合に、白浜だから、館山だからというようなことでもって、観光について駅前にはよくいらっしゃいました。白浜と白浜灯台こういうものを全然出さない。観光協会の案内所ですら全く独占的、この運営については先般の議会で質問したとおり親切というのは毛頭ない。

むしろ、私は観光協会の分裂の発端の一つに、観光協会の駅前の設立をめぐっての負担金の問題がかなり影響したことは記憶に新しいところでございますけれども、私はむしろ広域市町村的な、そういうセクトを持たなければ、白浜と共同で館山の駅前に共同案内所をつくるぐらいの館山市の親切心というんですか、そういう広い気持というものがなければ、広域行政の安房郡一円の中心都市である館山のリーダーシップとしての見識が疑われるんじゃないかというふうに思うわけでございますけれども、こうした点について、館山の駅前に建てる観光案内所については、市町村合併が自主的な問題でもってできないということだったから、観光協会ぐらい白浜と館山と一体となっていけば、その相乗効果はどのぐらいになるかということはある人でもわかりますよ。そうして、観光案内所と、そういうものをもって町村が違うからといって、来るお客はおなじわけですよ。そういうものに対して

温かい心、そういうものが市の行政の中ににじみ出ていいんじゃないか。そういうことをやることによって白浜町と館山と合併しなればならないという機運になってくるんじゃないか。

そういうものが、あれは白浜だから、館山だから、館山だという半島のなもの。こういうものが市の行政、観光協会の中のそういう問題にあったんじゃないか。こう思われるわけでございまするけれども、私はここでもって、観光案内所の共同設置、共同利用について白浜と協議して、そうしてこの南房総一帯の観光について考える意向はないかどうか。

私は、これは国鉄自動車だとか、日東交通はすでにあの南房トラワラインバスで館山、白浜、千倉、鴨川に至るまでの全町村と協力してまんべんなくやっておりますよ。全国の観光バスの中で営業成績高いんですよ。民間はちゃんとそういうことでやっております。市の行政でそういうことができないのはどういうことか。このことについて観光案内所の白浜との共同経営、共用利用、共同設置についてどのようにお考えになるのか。御質問いたす次第でございます。

○市長（半沢良一君） 町村合併の問題はいろいろ複雑な要素があるわけで、観光の面からだけでこれを取り上げるわけにはいかないというふうに考えておりますし、また白浜の方々と接触する機会もありましたけれども、どうも合併しろという声を一べんも聞いたこともございませんので、自主的な、先ほど御答弁申し上げましたように、自主的な市民の、住民の声があがってきた段階で考えてしかるべきではないかということでございます。

観光協会の合併の問題でございます。これは確かに大局的見地

から考えればそのとおりでございますが、なかなかそういうたてまえだけで両方が協業をするというわけにはいかないと思います。それぞれの利害関係を伴う問題でございますので、なかなかむずかしい問題だろうと思います。

これも、一つの見解でございますので、また今後観光協会の中で、寄り寄り相談をいたしてみたいと思います。

○一五番（辻田 実君） 私は、合併問題について民意の自主的問題ということで、市長はすっきりした形で御答弁されました。非常に結構なことだと思います。

そこで、私は質問内容を二ないし四にやりますけれども、国道バイパスについては、あれだけの民意の中で反対があるにかかわらず、どうしてこの自主性を尊重しないのか。

もう一つ、農業政策について、先ほど渡辺議員も質問したように、農家として非常に困るんだ。農家経営について減退を招くという館山の状態の中で明らかになっております。だけれども、国の政策だからということで協力をお願いしてあるということ。これはどういふことなのか。この自主性は尊重されないのかどうなのか明らかにしてもらいたい。

○市長（半沢良一君） バイパスの問題、確かに反対している方がいらっしやることも十分存じておりますけれども、また賛成の方がたくさんいることも存じております。私は大局的な見地からバイパスが建設されるべきだというふうに考えておりますので、反対の方々と国の建設省の建設計画がまとまり次第、反対の方々との話し合いをして円満につくっていきたいというふうに考えております。

農業の場合にも、大局的に考えまして転作はやむを得ないものだ。現在の段階ではやむを得ないものだというふうに考えておりますので、先ほど渡辺議員の御答弁にも申し上げましたとおり、決して無理をするつもりは私にはございませんので、それぞれ農業委員あるいは農業協力員等の方々の御協力を得ながら、農業団体の協力を得ながら、農家の方々と十分話し合いをもつて進めていくわけでございます。十分な話し合いの結果によってそれをしていきたいというふうに考えているわけでございます。決して農家の自主的な意思を無視してこれをしていく気は毛頭ございません。

○一五番（辻田 実君） 私は、無視して云々ということよりも、パイパスの問題、三年前に初めてパイパスの説明が建設省の方からあったときにほとんどの人が知らない。できることによって反対者が出てきた。反対者が出てきたから、これは国の政策から反対するのはおかしいというようなかっこうの中でもって、付屬的に問題が盛り上ってきた。これは政治化している。政治化しているからどうこう言えないけれども、私は町村合併の問題については、冒頭住民の中からそういう声がないのもって取り上げるということはどうか、自主的問題だからということではかわりあわない。

では、減反について、館山市長は、施政方針の冒頭に、人間尊重また市民生活優先の市政を根本理念として、これまで三年間進めてまいりましたということで強調しておる。減反政策、国から出るまで、農家のある田んぼを減らした方がいいということが一つでも館山市の中にあるのかどうか。これをすりかえられては困

りますよ。しかしながら、国の国策という中でこれをやらなければならぬ。やってくれということで協力をお願いしている。ここにやはり自治体の指導というものはあるはずでしょう。

町村合併においても、白浜と鵜光だけではできない。確かにそのとおり、できないかも知れない。しかしながら、単なる鵜光だけでなく、高等学校においても安房郡は一円です学区は。館山高校にしても、安房高にしても、水産高校にしても。水産は特殊高校でございすけれども、すでにそういうふうになっている。

商圏についても、白浜の人が館山駅を通らなければ行けない。東京に行けない。千倉を使う人も何人かいる。また館山を通らなければ大半の人が富浦、船形に行けない。交通的にも非常に深いつながりがある。またいろんな買い物についても館山で買う人が多い。館山で多く買ってもらわなければならないというように館山の商業会の中にあるはずじゃありませんか。

しかしながら、今日商業圏、経済圏、鵜光圏、高校圏というようなものを考えていく中에서도、地方自治体として館山の地理的な条件、歴史的な安房一国の行政スタイル、こういう中からやはり館山市が六万都市よりも十万ないし十二万程度ぐらいの行政自治体の方が、中学校においては六学級以下の学校は適正規模じゃないから統合していくんだ。非常に無理な統合案を出している。自治体には適正規模があるはずで、適正規模というのは人口だけでなくて、そういう経済圏、商業圏、鵜光圏、学校圏というものをくんでやはりあると思う。

数回、館山市が委託した都市診断の中においても、そういった商業圏なり、経済圏、学校圏というものは安房一国として一つに

なっている。こういうことから考えて、私は瀬光の解決というものを突破口にしながら白浜、さらには三芳、丸山については水との問題をからんで、さらには三芳から丸山そうして鴨川市有料バイパスをつないで京葉道路と直結するということを、これは一二七号バイパスとは別に考えてみるべきではないか、このように思われるわけでございますけれども、それにはやはりバイパスをつくっていくということの中においては、そこには将来の共同の利益という、そうして共同の利益ということも最大限の共通事項は同じ市町村ということでもって合併ということを前提しながら産業経済圏というものを一体にしていくと、こういうことを行えば、私は町村合併というものもおのずから出てくるんじゃないか。事実、市長はその問題だけでは町村合併どうこうということはない。こういうことですけれども、一般の町民やなんかは三芳でも、丸山でも小さい町でうだつがあらないでいけない。町長だとか、議員とか、役場の人間は自分の首の問題だとか、職員が課長になればいいとか、そういう問題があるから、なかなかやってくれないけれども、本当は館山と一体になった方がいいという世論がいろいろあるんです。聞くところによつては。

本当に市民優先の政治だったら、そういうところまで考えて個々の人間の考えがいろんな学問的に経済圏とか、商業圏そういうものを考えていった中で、やはり都市の発展にはいいんだという判断をすれば、積極的に行政サイドから減反政策を進めると同じように、バイパスは国の方針でやりたいという意向があったら国の施策ならやりました。住民に納得させるということとでやっております。そういう形でもってやり得るはずだと思つてわけでござい

ますけれども、そうしたことにについては考えられないのか、なお先ほどどおり自主的なもので取りすがる余地もないのかどうか。再度御質問する次第でございます。

○市長(半沢良一君) 辻田議員の考え方も一つの考え方でございましてけれども、産業経済圏あるいは教育圏が即政治圏でなければならぬという根拠は何もないわけでございます。また人口が何万が最適規模であるということも学問的根拠は何もないわけでございます。

私は、必ずしも大きいことがいいことではない。小さくてもいいから香り高い文化的な都市をつくりたい。小さくてもいい。宝石のような光る町をつくりたい。それが私の考え方でございます。基本的には今後大きくした方がいいという考え方と、大きくなくてもいいという基本的なそういう考え方の相違だろうと思ひます。私は小さくてもいいから、必ずしも大きくなくてもいいから、都市機能の十分発展した、精神的豊かな町をつくりたい。そういう考え方でございます。

○一五番(辻田 実君) それはわかりますよ。市長は常にそういう形でもって対応するんです。じゃあ、なぜ中学校なり、学校は適正規模を云々されるんですか。小さくたって伝統的、昔の集落あるじゃありませんか、そこに築かれた多くの問題もあるじゃありませんか。それを教育委員会の方から統合した方がいい。適正規模からということでもって再三やっております。一方においては数の問題ではない、質の問題だ。では、統合問題それらの問題についてはどうしても適正規模云々ということを押してくる。こういうことが行われているんですよ。そのことについて、私はもう

ちょっと市長自身謙虚になれないかということであって、それでは関連して申しますけれども、学校のものについてはいままで伝統的にある中学、そういうものについて適正規模にしなければならぬという理由はどういうところから出てきたのか。その点について一つお伺いしたいと思います。

○市長（半沢良一君） 私が申し上げましたのは、小さいからいいといっているわけではないんで、小さくても都市機能の十分備えた都市ならばそれでいいんじゃないか。

小規模学校統合をしなければいけないというのは、小学校あるいは中学は小規模で学校としての機能を十分果していないから、統合した方がいいという考え方でございます。

○一五番（辻田 実君） この点については平行線をたどりますから、このへんでもって打ち切っておきますけれども、やはり今度都市診断をされるそうでございますから、そういう観点に立って一つ論議をしていきたいと思っておりますので、時間もありませんので、このへんで打ち切りたいと思います。

次に、三番目の館山駅の改築でございますけれども、館山駅の改築につきましては十分検討をして対処していきたい。こういうことでございますけれども、都市開発の出発点において、館山駅の改築というものが決定されないとスタートがでないいではないかというように考えられるわけでございます。

このことは、私もかつて本間市長さん等とも一緒に館山の駅または管理局の関係者と話し合いを傍受したときに、館山の駅はいまのところ固定する気持はないと、若干移動するということも考え、含んで云々ということが言われておったわけでございます。

これについて急換、商店街でもって移されては大変だということでもって、反対運動が起こされたことは、当時市長も商工会議所の会頭として御案内のとおりだと思いますけれども、この点については、私はきのうも駅の関係者に若干聞いたわけでございますが、改築する時期はもうきておる。このときには、いまのところに建てるかどうかということについてはきまっていない。若干前後に移るといふことの方が大きいんじゃないかということも言われておる。これは直接の当事者じゃありませんから、管理局の人にありませんけれども、そういう見解が示されておる。

そうなってくると、駅によって発展した館山の商店の再開発について、一つのセンターというものがきまらないではないかというふうに思うわけでございまして、そういう意味においては館山駅の改築これは早急に確定しておく必要があるんじゃないかと思ひますけれども、館山駅の改築について位置の問題と将来の問題についてどのように考えておるのか、お伺いしたいと思います。○市長（半沢良一君） 先ほど、御答弁でも申し上げましたように館山駅の問題につきましては、複線化を県の計画の中でも、複線化ということをや五カ年計画の中でもうたっておりますし、また沿線市町村といたしましても、施政方針でも述べましたように共同して複線化を実現したい。五十三年度からその方向に向かって働きかけたいと考えております。

国鉄の方も、先ほど御答弁申し上げましたように、複線化に伴って国鉄の立場で駅の改築を考えたいと思っておりますので、そういう運動とからめて考えたいと思ひます。そのときに位置がどうなるべきかということにつきましては、国鉄側の意向もござい

ましようが、なるべくならば現在のところが私はいいいと思いますけれども、国鉄側の意見等も聞かなければならないことだと思います。

〇一五番(辻田 実君) ジャスコの進出というものがかなり大きな話題になつてゐるわけでございますけれども、このことは裏を返せば、現在の商店街、先ほども市長も言われておりましたように不十分だ、市民の立場に立った、消費者の立場に立った十分な体制ができておらないということがジャスコを招き、招いたことによつて被害が出てくると、この体制が十分であれば、むしろジャスコが出てきても、商店ががっちりしておれば、ジャスコが出てきても何もこわいことはないわけでございます。

現実的には、館山の商店街についても道路は狭い、買い物に行つても駐車場がない。そうしてちよつと買い物をするために店の前に置けば、女の警察官なんか来て、駐車違反だということと押して、警察に來いということと罰金取られてしごかれる。全く不愉快きわまりない状態で買い物に行かなければならない。こういう状態を解決しない限り、やはりジャスコなり、そういうものが何億も金を出して店をつくつても絶対的に市民がこつちに来るといふ確信があるのではないか。

したがって、館山の商店街もそういう欠陥があるからこそ非常に願いで、ただ単に願うだけでもつてこの問題解決しないと思つてでございます。そうしたやはり商店街の再編成等をして再開発をしていかなければならない。再開発が具体的にできなければ共同駐車場なり、そういうものを設置しながら、当面する個々の住民の不便こういふものを解消しなければならぬ問題等もある。

んではないか。

私は、駅舎の問題それからいろんな再開発の問題、金のかかることもわかりますけれども、商工会議所に対する指導も資金面からも相当市で行つておりますし、市長も前任の会頭でもあるわけでございますけれども、商工会館云々の予算も出てきて莫大な金を投資しようというふうな問題もある。会館が大事なのか、商売が大事なのか、そういう観点からの行政指導そういうものもあるんではないか。そうして実際に生活の場である商店そのものをほつぽらかして、ほかのものがどうかという問題も出てくるのではないか。そういうことが、そういう考え方が観光協会の問題、今後のジャスコ等のからみ合いの中から大きく出てくるのではないか。こう思うわけでございますけれども、ジャスコ進出に対して商店の再開発は緊急な問題であらうと思つてございすけれども、そうした面について早急に行つて意向があるのかどうか。時間がまいましたから、要望にとどめておきますが、次の予算案の中で、そこで答弁いただきたいと思つてます。よろしく願ひいたします。

〇議長(吉田勇治郎君) 以上で、一五番議員君の質問を終わります。暫時休憩いたします。

午後二時三十五分 休憩

午後三時 一分 再開

〇議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、一六番議員安西益男君。

(一六番議員安西益男君登壇)(拍手)

〇一六番(安西益男君) 私は、五十三年度予算執行に当たり福祉

問題、学校建設等工事請負発注のあり方、観光の推進、環境づくり等の四点について御要望申し上げます。当局の前向きな御回答を期待し、御質問いたします。

まず最初に、福祉政策の一環として、生活保護費の口座振替制度を実施すべきであると思うがどうかということであります。

当市では、生活保護法に基づく生活費の支給については毎月一日現金給付を行っておりますが、これを改め、口座振替で支給するよう御提案申し上げます。

口座振替支給を実施することにより、第一に、支給の秘密保持ができ、第二に、必要な金額だけ引き出せる。第三に、事務が合理化される等のメリットがあり、受給者は大歓迎するものと確信するものであります。

さらに、制度のあり方について申し上げるならば、一つ、目的としては、生活保護法に基づく扶助費の支給について、受給者の便宜と事務の簡素化、その他等のため、従来の現金給付を口座振替に改め、合理化を図ると。

二つ目としましては、取り扱い機関については銀行、信用金庫農協等を利用する。

三つ目としまして、預金口座の設定については、原則として各金融機関に新規口座を設け、口座番号は福祉事務所に登録しておく。

四番目としましては、預金等の秘密保持については、被保護者の預金等の秘密は特に厳守する。そうして負債等の対象としてはならない。

五番目としましては、預金と収入認定の関係につきましては、

扶助費に関する預金はすべて認定収入の対象としてはならない。六つ目、福祉事務所は金融機関における本人の預金の確認は原則として行わない。その必要事項をきめる。

この制度については、当局におかれましては、実施の方向で対処されることと確信いたし、あり方について詳細に述べた次第でございます。

二つ目としましては、老人及び身障者世帯に対する固定資産税の減免措置についてであります。

今日、年々増加していく多くの老人世帯の生活は年金制度だけではやっていけず、大半が生活保護を受けなければならぬ状況であります。その生活保護を受けることはできず、若いときに蓄えた少ない預金と年金支給で生活している老人世帯が多くなっております。

そして、こうした厳しい生活状況にある老人世帯に対して、現行税制は一律に固定資産税を課し、老人世帯の多くは大変苦慮しておるのが実情でございます。固定資産税は土地及び家屋等の財産に課税されるもので、老人にも納税義務があることは当然と思われませんが、収入源のない老人世帯にとってはきわめて苦痛なことと言えましょう。

そこで、老人世帯及び身障者世帯に対して固定資産税等の免税措置を実施することを提案するものであります。老人の亡きあとには遺産を受ける親族がそれ相当の相続税を納付しなければならぬのでありますから、減免措置の実施は可能と思われるのであります。

市税条例の七十二条においては、確かに固定資産税の減免処置

がとられることになっておりますが、この条例はおおむね生活保護の老人世帯が対象となっておりますので、その状況に近い老人世帯は対象となれないのが現状であります。前向きに御検討をお願いしたい次第であります。

三つ目としましては、学校建設等の工事請負費に対しては分離発注すべきであると思いますが、これについてお伺いいたします。昨今、各自治体においては分離発注の方式を実施するところが多くなってきており、館山市も時代に即応した発注の方法をとるべきで、一括して建設業者に請け負わせているのではなく、電気工事は電気関係者に、水道工事は水道関係者にというように、それぞれの業者に対して工事を委託することが合理的と思われるが、市の今後の方針をお伺いいたします。

四つ目としましては、市長は行政の監督、指導に当たり、より積極性ある行動を願いたいということでございます。一連の観光政策の推進並びに環境づくり等についてでございます。

公明党が住民サイドの立場から、これまで議会で提案申し上げ、なおまた要望書等に申し上げてまいりました問題につきましては、かなりのものが実現し、なおまた実施する方向にありますことは市民のために喜ばしい次第でございます。しかしながら、館山の現状からして、また将来にわたっての立場から判断するとき、なお多くの問題点を申し上げ、市長の一段の熱意と、より積極的な姿勢を願うものであります。

これまで提案いたしました諸問題に対し、約束された回答について、その後の経過をお伺いする次第でございます。

まず一つといたしましては、駅前自転車置き場の移転先につき

ましては、数回にわたり要望してまいりました。市長は、観光館山の表玄関であり、美観上好ましくないということ、国鉄利用者で占められておる現状から、できれば国鉄所有地への移転を早急に関係各機関と連絡をとりながら考えてまいりたい。

また、国鉄バス本館山駅付近の国鉄使用地の空き地の問題につきましても、その後の経過と問い合わせ等をお伺いしたい次第でございます。

次には、元有料道路富崎料金所ぎわの公衆便所開放の件でございます。いまなお鉄条網が張られておるが、この問題についてはどうなっておるか、お伺いいたします。

三つ目としましては、里見城資料館建設促進について県当局に強く要望することとしたが、経過についてお伺いいたします。次に、市民参加による清掃要綱づくりについてはまことに結構な御提案であるので、先進地の実態を参考にし、各種の団体と十分な話し合いを持ち、コミュニティづくりの一環として計画、努力してまいりたいと、市長の回答でしたが、どのような行動をされたか、お伺いする次第でございます。

さらに、昨今、一流新聞、その他で報道されました観光協会問題、花摘み園騒動問題、海岸のごみ問題等に関する手厳しい記事の内容に当たっては、市当局としてはどのように対処していくか、御説明をお願いする次第でございます。

以上でございますので、よろしく願います。(拍手)

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 安西議員の御質問にお答えいたします。大きな第一点、生活保護費の口座振替制度についてでございます。



すが、生活保護法による扶助費は、現在のところ支給当日市内六カ所に市職員が出張の上、被保護者に支給いたしております。

御質問の金融機関に設けられた口座に振り替える支払い方法につきましては、被保護者の地理的分布状況及び秘密保持を十分配慮しながら、被保護者の利便等を考えまして、目下慎重に検討中の段階でございます。

この口座振替制度はいろんな長所もございますけれども、細部につきまして調整を図る必要がございます。この制度に対する被保護者の理解、加えて金融機関の積極的な協力を得まして、前向きにこれを煮詰めてまいる所存でございます。

次に第二点、老人及び身障者世帯に対する固定資産税の減免措置についてでございますが、固定資産税はその市町村に所在する土地、家屋及び償却資産を課税客体にした、いわゆる資産課税でございます。したがって、資産を所有するものは固定資産税が課税されるわけでありますが、生活困窮のために、あるいは災害等により納めることができない場合等においては、市税条例の第七十二条による固定資産税の減免規定が適用できるようになっているわけでございます。

この条文には、老人あるいは身障者という特別な定義づけはされておられませんけれども、生活困窮のために納税できない方は、当然本条例に基づいた減免措置が受けられるわけでございますので、御了承をいただきたいと思います。

第三の学校建築等の工事請負に対して、分離発注すべきではないかとの御質問でございますが、御承知のとおり、公共工事等の発注に当たりましては、特定の業者のみに発注することなく、数

多くの業者がそれぞれ受注の機会が得られるように特に意を用いているところでございます。したがって、総合建築請負業者に限らず、個々の設備業者に對ししても、分離発注の機会が与えられるべきだと考えます。

このような観点から、種々検討の結果、補助事業等の場合、上級官庁への承認等若干の制約もありますが、一定規模以上の事業で可能なものについて五十三年度より分離発注をいたしたいと考えております。

市長は、行政の監督、指導に当たり、積極性ある行動を願いたいという御質問でございますが、まず第一点は、自転車置き場でございますが、これにつきましては館山の駅長に申し入れをいたしましたところ、いろいろ駅の構内のいろいろの事情もあって大変むずかしいことであるけれども、管理部の方に連絡をとりますという御答弁をいただきました。そのまゝに実はなっているわけでございます。今後またこれを話し合いを進めたいと思っております。

本館山駅跡の空き地のことでございますが、実はあそこは館山城山公園の整備といいますが、ということで開発、整備という観点から、あそこは土地だけではなくて、あの城山のみもとあたり土地に駐車場でもつくるべきではないかというような考え方も持っておりますので、実は地元の方々に御意見を承るようにはしているわけでございますが、まだその具体的には進んでおりませんが、これも早急に一つ話し合いを進めてみたいと思っております。

それから、富崎有料道路脇の公衆便所でございますが、これも県の方にお願いをいたしまして、現在使えるようになってい

ずでございます。

それから、新聞に報道されました北条海岸のごみの関係でございますが、御指摘のように観光的な、あるいは環境の美化という面からも好ましいことではございませんので、十分配慮いたしておりますけれども、現在の状態では心ない方たちによってごみ箱が一気にあふれるような状態になることもございますので、焼却埋め立て処分をいたしました。今後また十分監視をして観光地としての配慮はいたしてまいりたいと存じます。

また、この問題につきましては、ひとり行政の範囲内でできることではございませんので、市民参加による清掃でなければできないわけでございますので、そうした清掃要綱づくりにつきまして、前回の御質問の中でも御提言のありました先進地の条例、要綱等を取り寄せ、環境衛生サイドに立って担当課に検討いたさせておりますけれども、やはり前回申し上げましたように、各種団体との十分な話し合いを持ちまして、コミュニティづくりの一環として計画、努力いたしたいと考えているわけでございますが、コミュニティづくりに際しましては、やはりあまり大きな問題を取り上げるんじゃなくて、ごく自分たちの身の回りのこと、たとえば、自分たちの住む町をきれいにしようとする、そういうような具体的な運動から始めるように社会開発課の方には指示をいたしております。そういう方向で話し合いを進めているわけでございます。今後ともその実現に努力をいたしたいと思っております。

宿泊関係の花摘み園の件でございますけれども、市で植栽を委託いたしましたものを、利用、管理面を宿泊関係団体にお願いをして従来から運営をいたしているわけでございます。したがって

宿泊関係団体でキャンピングカーの借り上げ、二人の当番、花摘み券の印刷等を行っております。

宿泊関係団体以外の方たちにも相当の費用負担あるいは当番としての参加をお願いし、同一条件での利用方を話し合いの中でお願いをいたしましたのでありますが、残念ながら一致点を見出すことができなかったため、現地での紛争を懸念いたしまして、利用券を引き上げざるを得なかったわけでありました。

五十三年度につきましては、あり方を十分検討いたしまして、善処をいたしてまいりたいと考えているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

〇一六番（安西益男君） 生活保護費の口座振替制度でございますが、前向きに検討したいということでございますが、これはもうすでに他でやってある。そういったところの調査といえましょうか、問い合わせといえましょうか、状況等についてはすでに掌握されていらっしゃるというふうに感じております。こういったところで、全般的に見れば、あるいはいままでのような方法がいいというごく少数の方はあるかと思えます。しかしながら、そういった方たちの大半の感覚はどうかということになれば、大半の方が歓迎することはどなたが判断されても間違いないんじゃないかというふうなことが十分感じられます。

そういった点で、そういった方向に進んでいくんだというお考えか、しばらくは検討されるというお考えか。その点のうちちょっと煮詰めた御回答がいただければと思います。まずその点から福祉事務所長（越路良夫君） お答え申し上げます。

現在、事務的な段階で煮詰めを行っておりますので、実施する方

向での兼詰めでございます。

〇一六番(安西益男君) よろしく一つお願いいたします。

次の、二番目の老人ないしは身障者世帯の固定資産税の減免処置ということでございますが、実際には制度化ということになりますと、大変に技術的と申しましょうか、制度的に問題もあらうかと思ひます。

そういったことで、一つこの提言を契機に、こういった方たちに対する十分な配慮をいただきたい。ここに大きな期待を持って質問するわけでございますので、どうかまだまだ生活保護世帯の対象者でないこういった方たちが結構あるというふうなことも十分言えますし、ある程度状況も知ってるわけでございますのでそれに準ずるような、市税条例の七十二条にありますような方向の御配慮で、こういったボーダーラインの老人世帯といえますか対象者には温かなそういった配慮を願いたい。この点もお約束といたしますか、そういった方たちには大きな世帯ではございませんので、どうか十分御配慮願いたい。このように思ひますが、この点もう一べん確認させていただきたいと思ひます。

〇市長(半沢良一君) 検討を終わりました段階で、実施に移したいと考えております。

〇一六番(安西益男君) 大変前向きな、この方たちの立場を考えられての回答でございますので、大変ありがたく思ひ次第でございます。

次の、学校建設ないしは各業者に請負を発注するというような方針だということでございますので、これも今後そのようにお願いしたいということでございます。

問題は、重点的に聞かせたいということ、四番目の先ほど申し上げました個々の問題でございますが、まず最初の駅の前の自転車置き場これ詳細にわたって市長から御回答いただきましたように、前回も、前々回も同じような御回答をいただいております。

そういったことで、これは千葉の管理局とか、ましてや地元の駅長さん等との話し合いでは全くらちがあかない。そんななまぬるい行動ではなく、とにかく市長さんがおっしゃってるように、表玄関の大事な場所だということを十分お認めてございますので直接運輸省なり、国鉄本社なりそういった直結した陳情あるいは依頼、そういった方法がとれるわけでございますので、そこまでの本気になった姿勢を望みたいわけです。

ということ、過ぎた七、八年前ですが、現在国鉄バスの富崎駅というのがございます。これはすでに七、八年前廃止が決定したわけです。そこで当時、地元の方から何とかあそこを存置してもらいたいということで依頼を受けて、区長さんお願ひして署名をいただきました、それから当時の衆議院の知ってる方にお願ひし、陳情書を添えて国鉄本社、それから運輸大臣宛の陳情を届けまして、結局それがいまもって特別に存続が認められたという事実もあります。

そういったところで、どうか一つこれからの大きな観光推進をしようという立場の館山でございますので、その点も十分一つ進めていただきたいと思います。

もっと具体的に言うならば、これは市長さんも参議院の運輸委員長をやりました上林参議院議員、この方に実は運輸委員

長をやつたらしくるときに、館山から市長さんもぜひということ  
で伝えておりました、いつでもという段階になっておりました。  
市長さんの方からさっぱりお話しもございませんので、そのまゝに  
なつておつたということで、そのうちかわりまして、しかしなが  
ら、同じ党の参議院の先生が委員長やっておりますので、また一  
つそういう点ではいつでも御案内申し上げて、直結した立場で  
交渉していただきたい。

なおまた、いま国鉄の方はご存じのように赤字ということで、  
国鉄の遊休地についてはホテルを経営するとか、あるいいいま  
でと違った方向で、そういう方向で打ち出しているということ  
も聞いておりますので、駅前の土地を借り入れるなり、払い下げ  
るなり、本館山の方もいますぐにそういう行動に移っていただ  
きたい。この点も一つ御要望申し上げておきます。

それから、次の富崎は、あそこはまだ鉄条網あるんです。使用  
はできませんけれども、最近私が一、二回通りました。まだ鉄条網  
張つてあるんです。もっときれいに、ドライバーの方たちが抵抗  
なく使用できるようにもっとと一つすっきりした形に持つて  
いていただきたい。

これも前にお願ひしまして、早速取り上げましょうという御回  
答いただいておりますので、もう一回確認して、あるいは二、三  
日前取つたかもわかりませんが、ごく最近私が通つたときにまだ  
残つておりました。責任ある処置を願ひたい。こういうことでご  
ざいますが、いかがでしょうか。

○市長（半沢良一君） 自転車置き場の件に關しましては大変失礼  
をいたしました。今後積極的に、また安西議員さんの御助力も得

ながら積極的に運動を働きかけたいと思います。  
本館山駅につきましても、御助言を得まして目的を達成したい  
と思います。

それから、富崎の公衆便所の件ですが、まだ鉄条網が張つてあ  
るようでございますが、これも県の土木と連絡をいたしまして、  
早急に取つてもらひようにしたいと考えております。

○一六番（安西益男君） 大変たくさん聞きたいことがあるもので  
すから。

それから、里見城資料館ということで、いま調査等をやつてお  
りますけれども、つくるんだということで一つお考えをさらに進  
めていただきたい。城山の里見資料館のことです。これもだいた  
川上知事も前向きのお考えしていらつしやるということも聞いて  
おります。そういうことで県に要請するのは当然でございます  
が、場合によっては、館山だけでもつくっていくんだというぐら  
いの腹構え、二段構え、三段構えということで、とにかくあそこ  
に観光のシンボルをつくるんだということで積極的にやっていた  
きたい。

ご存じのように、大喜ではこの間お話ししましたように、近く  
は久留里城これはすでに起工式を昨年終りました、地元で六百二  
十万というような、総工費でそんな大きな金ではないわけですが  
そのように新聞には出ておりました。あるいはけつたが違つたかも  
しれませんが、六千二百万です。失礼しました。そういうことで  
地元合わせて県の歴史資料館という県の手で建設するようにな  
つたということで、そういうことを見ますと、大喜そうして  
久留里さらには館山にそういう城の形をしたものをつくるとい

うことになり、南総一円にかけても観光のコースというのが完成されてくるわけです。館山が立ち遅れているということは館山のみならず、全体を含めた南総にも大きな一つの問題を来すという結果にもなりますので、この点も強力に進めていただきたい。

なおまた、顕彰会等は非常に広範囲にやっていると、さいますので、この点も一つまた強く要望していきたい。こういうことでございます。

次の、市民参加の清掃要綱づくり、いろいろと研究されているところだと思えますけれども、先ほど申し上げた海岸の問題にしても、なかなかこれは海岸の清掃ということは、昨年の三月にも御要望申し上げ、いまもって結局、ごく最近またごみの問題では新聞に手厳しく報道されたということでございますので、ここで一つ衛生課が云々とか、あるいは観光課がどうかというのとでなく、その中心にある市長さんのどうすべきかということをつまみとめて、そうした批判のないように、そういう方向づけをきっちとしていただきたいというふうに思いますので、この点について、今後夏もまいりますので、一つお考えをお聞かせいただきたい。

○市長（半沢良一君） 市でも海岸の清掃につきましては、ある程度予算を取っているわけですが、なにぶんにも、夏場は特に観光客、海水浴客のために重点的にこの費用を使うわけですが、なかなか年間を通じてというわけにはまいりませんので、どうしてもあの海岸を自分の庭のようにしている方々、あの地区の方々に先に立ってやっていたということがたてまえ

になるかと思うわけですが、いずれにいたしましても市民全体の中に町をきれいにする、自分たちの住んでる町をきれいにしようという、そういう雰囲気盛りに上ってこなければならぬなかなかなこととございますが、そういう気持ちというのは基本的に言えばコミュニケーションの精神につながるんではないかと思ひます。大変抽象的ですがことに申しわけございませんけれども、いまのところはコミュニケーションの一環として計画、努力をいたしたい。そういうふうに考えているわけでございます。

○一六番（安西益男君） 館山の立場から、また市の立場からすればよくわかるんですが、しかし市民の見え立場、それから観光客の受ける印象、感覚これはそういったことに全く関係ない。市の立場が苦しいといいますが、行政も大変だということは一般の方たちや、観光客には全くそれがわからないわけですから、そこで一つ市民参加のそうした運動を起こすという方法、あるいは市としてはどんな方法で批判のないような行政指導をするかということとを、やはりこれもはっきりと方向づけをさせないと、また同じことの繰り返しになっては大変。

ご存じのように、昨年は製本費幾らですか、百四十何万組んでパンフレットが三万、里見史跡めぐりが一万枚、さらにはポスターが一千枚ということに大々的に観光宣伝を協会としてもやっているわけですから、宣伝はしているながら、地元に来れば海もあまり感心しない。あるいはまた花の問題では非常にこだわっているということでは、全くわれわれが考えただけでも、すっかりと行政指導とれないものか、非常に心配するわけでございます。

また、花の問題もチラシ、新聞等見ますと、特定の旅館組合が

権利を持ってるような、そういう感覚を持っている。しかし、同じ旅館の立場に入っていない京成なり、マリシホテルといいますが、あるいは自然村とか、まだ市内にもあると思いますが、そういうところのお客さんは全く適応できない。除外されている。来るお客さんに罪はない。そこに泊まったお客さんは入場券をもらえない、ポスターに無料で配布するというようなことでは、非常に協会がきつぱたしている、指導が徹底していないではないか。そういう感覚を受けることは間違いないわけです。

そういう点で、これから観光協会の発足に当たっても、どうか一つ、しかも市長の立場で観光協会長という大きな期待が市民全体から寄せられているわけですから、いままって人事構成がスムーズに運んでいないということでは、今後できた場合に、今後の行政的な運営面にも期待が持てるのかどうかということとも言えるわけですから、すっきりした一つ建設的なそういう人員構成していただきたい。これは感情なり、権力そういういたもので支配されるということができないような、そういう建設的な何とか館山の将来をよくしていこうじゃないか。さらには本館山の観光を発展させていこうじゃないかという建設的な、そういう持ち主の方が集まれば、もうこんなことは、半年以上たってもできないというようなことはあり得ないわけです。そこにけ利害があり、感情があり、何らかの利害するものがあるというふうに思われるわけです。

ですから、この点一つ大きな期待を寄せられている人の立場でこのような内部のすみやかな円満なる観光協会の発足を一日も早く、夏前に早くしていただきたい。このように強く要望する次第

でございますが、市がやはり補助金等も出さなければなりません。それから、そういう点では、大きな立場でお願いしたいと思えます。

これとは私に全く、またそういういた館山の観光のもう一つの協会、推進協会というのがあります。これは特別に私どうこうということでもありません。しかしながら、実際には献身的といえますか、海の清掃について、また城山に対する非常に情熱を持つような、そういう団体があるわけです。

また、補助金等を見ますと、本年度の補助金は九十一団体に補助金を出しております。昨年においては六十四団体でした。そこに今年に確か二十七か八団体がふえておると思えます。この点一つお調べいただきたいと思えます。

そういう点で、その内容は直接的行動をしている。そういうたふりなものも感じられる面がありますので、本館に館山にまじめに発展しようというそういういた団体には大いに結構だ。そういうふうに思いますので、そういう点も十分御検討いただきたい。このように思うわけでございます。

どうか、そういう点で、いろいろと御苦労の面も十分わかるわけでございますが、ただこういいたように、先ほど申し上げましたように新聞等に、一流新聞を初めとして数回出ますと、せっかくいいものが打ち壊されてしまう。これでは全く申しわけないというふうに市民の人たちにもそういう感じを持つと同時に、残念に思うわけであります。どうかその点一つ、十分今後そういうたことのないようにお考えをいただきたいと思えます。

最後にもう一つ、どうしても館山のシンボルとしては、城山を

中心とした観光の開発これは考えていらっしゃると思いますし、その実施をお願いしたいと思うわけですが、そこで、これから成田空港等もでき上ってくれば、いろんな点で観光というものが相当期待されるというふうな時代がくると思いますので、城山に対する開発は一つ力を入れていただきたい。

館山に、建設課長さん等も十分御承知というふうに聞いておりますが、市有地がそこにあるんです。登記上、図面上市有地になっておりますが、これは市のものでないという見方をしておるということですが、これははっきりしておきませんと、個人の所有地ではございません。所有者がいなくなってしまう。登記面は市のものだということから、この点ははっきりしていくべきだと思いますが、この点どういうふうになっておりますか。場所は知っていらっしゃると思います。三百七十一の二と一、これは館山字城山というふうになっておりますが。

○建設課長（飯田治男君） その場所は、館山のおそこに小字で城山というのと城山下と字が二つあるわけです。その地番は城山下の方にもありますし、城山の方にも公図上はのっかってるわけです。私どもの方で佐野さん、元のての字さん、佐野さんから買い求めたもので、現在の東屋のあれから海岸の斜面が大体ての字さんから買収しました土地でございます。

○一六番（安西益男君） ここに公図もあるんですが、このままになっておってはずいわけです。三十四年に売買されたというところになっておりますが、これはこれを見て違っていますよというわけにはいかない。これは一つ直すなり、違っていれば直す。至急にとらなければいけない。

○建設課長（飯田治男君） 申し落としましたけれども、台帳の方には城山三百何番地、城山下という字はないんです。私どもの方で調査しまして、そういう地番があるということで大蔵省の方に一応国有地扱いをしてもらいたいということで千葉の財務部の方に申請してございます。城山下のいわゆるお屋敷側の斜面の土地でございます。国有地扱いをしてもらいたいということで大蔵省の千葉の財務部に話しましてから、千葉の財務部も現地調査に来ております。

○一六番（安西益男君） 最近、里見八大士の墓がクローズアップしてきたわけですが、あそこは市有地になっておりますかどうか、この公図にはそのようになっておりますが。

○建設課長（飯田治男君） その土地は市有地ではございません。市の方で買収した土地ではございません。

○一六番（安西益男君） そうしますと、これは公図なり、こういったものを早速一つ直さなければいけないわけですね。何十年も放っておくということになりますと、どうなりましょうか。一つ検討していただきたいわけです。そうして市有地を、そういうことで一つよろしくお願いしたいと思います。検討していただきます。

以上で、終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一六番議員君の質問を終わります。次、一四番議員石井輝久君。

（一四番議員石井輝久君登壇）（拍手）

○一四番（石井輝久君） 私は、今次定例会が半沢市長にとっていよいよ任期が切れる最終年度の昭和五十三年度に突入しようとする

る意義深い議会であるとの認識の上に立ちまして、以下御質問申し上げます。

おそらく、察するに市長もまた胸中ひとしお新たな感慨が去来しておられるでありましょう。しかも、国内もろもろの情勢はきわめて重かつ大で予断を許さず、国際情勢に至ってはこれまた日中、日ソ、日米その他いづれを取ってみても、重大な局面を迎えようとしている今日、わが館山市政もまたひとり局外に立って拱手傍観していることを許されないと考えるのであります。米の生産調整一つを取ってみてもその感を深くする。さらに五十四年度は地方税の増税をみるかもしれない。

このような時局認識の上に立って、今次定例会に臨むとき、私は肅然えりを正して、提案されております案件の審議に先立ち、半沢市長に次の四点に就いて、当面する市政の緊要なる問題について質問しようとするものであります。どうか、率直簡明なる御答弁をわすれずらしますよう、まずもって要望し、質問に入ります。

質問の第一点は、半沢市長の最終年度に臨む決意と次期市長選挙に出馬する御意思ありや否やについてでございます。

折から、中華人民共和国は全国人民代表会議が開会され、三時間を超える華國鋒主席の演説があったと聞きます。そして今後十年間の中国の近代化方針が示されたと伝えられております。

私は、十億の国民を持つ中国と六万の市民を持つ館山市と一概に比べようとするつもりは毛頭ございません。ただし、さきに述べられました半沢市長の施政方針を伺って、率直に私の感想を言わしていただくならば、ビジョンに欠けるうらみなしとしな

いということであります。ビジョン皆無とは決して申しませんが、かつて故本間前市長は十万都市をつくらうと市民に呼びかけた。いわゆるビジョンです。

人間尊重もいいでしょう。市民生活優先もいいでしょう。明らかに豊かな住みよい文化福祉都市もいいでしょう。しかしそれは市民負担が漸増して、米の減反政策が強行され、福祉の後退を余儀なくされるに至って、市長の言われる人間尊重、その他が果して館山市民共通に通い合う共感が得られるとお考えになっておられるのでありましょうか。

そこで、私は市長に伺います。最終年度を迎えるに及んで施政方針で述べられたような総花予算の説明ではなく、一言にして、六万市民よ、半沢ここにあり。これがわがビジョンなりと声高らかに訴える何物かを抽出していただきたいのであります。すなわち最終年度に臨む決意をお示しいただきたい。これが第一点です。次に、今年の秋に行われる次期市長選に出馬される意思をお持ちかどうか。この際、率直に伺います。

関連して、現下の国内情勢においてはこの間、衆議院の解散、総選挙も予想せざるを得ないかもしれないのであります。千葉県三区から立候補を予定されていると言われる中村正三郎氏の後援会長をお引き受けになるやに伺っておりますのでありますが、果してそのとおりか、この間の事情を承っておきたいのであります。

また、同じく予定候補者の一人と言われる池田 淳氏は、本来市長の生業である酒造業の出身者と聞いており、いわゆる同業者であり、かつまたわれわれが郷土の大先輩であられた故衆議院議員水田三喜男氏の後継者であると伝えられているだけに、私は市



長の去就に市民は重大なる関心を寄せていると思つております。

質問でけなけた恐縮ですが、池田氏に対する態度いかに伺います。

同時に、市長選に立たれるとするならば、当然市長は自民党所属で立候補されると思いますが、この点の御所存を承りまして、第二の質問に移ります。

質問の第二点は、市の行政機構の簡素化に逆行する機構改革と給与表の改定についてであります。この点に關しては別の機会に議案第十号、十一号に關して詰めた質疑をしたいと考えておりますので、ここでは市長の大筋の考え方を伺つておくにとどめたいと存じます。

私も民社党は、中央において行政機構の簡素化を提唱し、福田内閣の政策の柱として、わが党の政策を入れるところとなつたことは御承知のとおりでありましょう。しかるに、福田内閣は柱としてみたものの、中央省庁の統廃に着手することもできず、後退に後退をしてしまったこともまた記憶に新しいところであります。

そして、私は館山市においても行政機構の合理化、簡素化について何回か発言もし、提案もし、そうして建設課と土木課が統合し、農産課と水産課が統合し、社会開発課が誕生し、市長公室が生まれ、教育委員会内部でもこれに歩調を合わせて若干の統廃が実施されました。確かに簡素化へ一歩を進めたと評価すべき面もありました。しかし、それでもいまだ一步の感を深くしましたが、今回行わんとしている行政機構の手直しは一室三部制をとつて、これだけならいかにも簡素化されたように見受けられますものの

実際には何が何だかわからない。市民にも全く一向にわからなくなつてしまふ。これは簡素化とは言えず、まさに逆に混迷化、複雑化を来すと断ぜざるを得ないのであります。この点に關する御所見を伺います。複雑、混迷化を来すおそれありと思つておりますが、この点に關する御所見を伺います。

また、部課設置条例を廃止する。関係諸規則は自然消滅する。課の存在はなくなる。これは一体地方自治法第百五十八条第七項法の規定との関連を、どうお考えおられるのか、明確にしたい。

次に、第百五十八条第七項の後段「他の市町村の部課の組織との間に権衡を失しないように定めなければならない。」との定めがあります。他の市町村との権衡が失われるとの感を深くします。この点のお考えはどうか。

また、これに伴つて給与条例の改定をされようとなさつておられる。まず、管理職手当ですが、月給の一割を手当として現行支給しているのを、百分の十五の範囲内で規則で定める割合と改めようとしておられるが、要は一割五分以内に一割を引き上げようとしている。

市長は、施政方針の中でこういつておられる。「昭和五十三年度の地方財政は、なお厳しい状態が続くものと予想されますが、市民がこの時代に即応して何を望むかを的確に把握し、財政の健全化を堅持しつつ限られた財源の重点的かつ効率的な運営を図りながら」云々とあります。

そこで、伺います。厳しい財政事情の中で市民が何を望むかを的確に把握されるという姿勢については私も同感いたしますが、

市民が果して管理職手当の増額支給を望んでいるとお考えになられておるのか。市長の選任、市民感情の把握のなさり方について簡明にお答えをいただきたい。

さらに伺います。提案されている職員給与条例改正案の別表第一は、昨年暮の議会に提案され改定したばかりではありませんか。わずか三カ月前の議会においてであります。一等級が一号から二十五号まで、二等級と三等級は二十四号までだったのを二十五号までふやし、四、五等級は二十六号までという体系が昨年の暮に可決、確定して施行されたばかりでしょう。

朝令暮改という言葉があります。これは一種の戒めの言葉であります。それをまさに地でいくのがこの別表第一の改正案ではありませんか。わずか三カ月足らずでまたまたおくんもなく、長い伝統の五等級を根本から覆して特一等級という、それこそ屋上に屋を重ねる改定をしようとする。昨年の暮に可決した一等級二十五号三十一万八千六百円までの給与体系、以下五等級まで全くそのままにしておいて、改めて今回特一等級一号から二十五号まで新たに設ける。まさに屋上に屋を重ねた、しかも朝令暮改の典型、この点に關してどのようなお考えか、御所見を伺わせていただきたいのであります。六万市民の納得のいくような御説明を承りたいのであります。

第三の質問は、駅前再開発に關してであります。これは前回も大型店舗ジャスコの館山進出を予測しての質疑の中で、市長も駅前再開発について言及され、答弁されましたが、私は駅前再開発法に基づく抜本策を考えていたのに対し、市長の答弁は法律に基づくのではなく、個々の商店が近代化とか、体質改善を考えてい

かなければならないとの御所信のようでした。

考えてもみていただきたいのであります。大型店舗が進出してくるとき、あの商店街の人々が個々の工夫によって再開発する程度で、果して大型店舗に対抗できるとお考えでございましょうか。まず伺います。市長は、個々の商人の意欲と一部の熱心の人々の努力で駅前再開発ができるかと考えておられるのであります。

次の点でございしますが、私は公権力、市のリーダーシップ、もっといふなら市長の強烈なリーダーシップのもとに不転の熱意をこめて法律に基づく駅前再開発の構想を立て、長期計画をもって近代化を図る以外に大型店舗対策はあり得ないと確信するものであります。

質問の冒頭で言及いたしました市長のビジョンとも関連いたしますが、この再開発法による再開発こそ、館山市の近代化のビジョンであろうかと思われまふ。市長は早急に検討に乗り出してみようと御熱意はありませんか、質問いたします。

次に、私は自由と民主主義は、私も議会人として第一義的に尊重すべきものとして肝に銘じているのであります。現今の経済の自由放任主義の時代はいまや終えんを告げなければならぬと考えております。なぜならば、それは弱肉強食、資本力の強い企業は弱い企業を踏みつぶしてしまひ、あるいは乗っ取ってしまひ自由がある。私は経済の計画化の要求は今後二十一世紀に向けて世界の命題に必ずなってくると思っております。すでにヨーロッパ先進国ではこの考え方は定着しつつあります。しかし、日本の日本では大型店舗に対する考え方も、それを悪とくみつけてしまえないのが現実であります。これが現在の経済の自由主義

であるからであります。

したがって、要は大型店舗に対抗するに、みずからの体質改善をもつてする以外にないということ、そのための駅前再開発による商店街の体質改善の方向であります。この点の私の発言に対して、半沢市長ならお答えになられることは可能でありましょう。つまり、いまの弱肉強食の自由を認める日本経済のあり方に関しての市長の御所見いかん。ちょっと大き過ぎましょうが、簡単にお答えいただきたいと思ひまして、次の質問に移ります。

質問の第四点は、米の生産調整についてであります。

私は、さきの議会で質問したのでありますが、これは国の第一次稲作転換指導があつた昭和四十五年の議会においても質問をしてゐるのであります。この四十五年当時国は百万トンの減反目標を立て、各県そして市町村に至るまで協力を求め、わが館山市は目標九百五十一トン、面積二百四十四ヘクタール、方法として市長が会長となつて生産調整協議会が設置されたのであります。

先ほどの同僚議員への御答弁によりますと、今回は去る二月三日に合同協議会を設置したとのことであり、二月六日に市内八カ所で仮配分をし、部落内で協議しているそうですが、すでにそのときから一カ月を経過して、数量を示すに至っていないと辻田議員にお答えになりましたが、これは一体どんなものか、一カ月たつて議会の質問に数量も示せないとは、これ一体どんなものでございましょうか。

農民の心の痛みを痛みとして、同じく汗し、同じく苦しむという気持ちに市の行政は欠けているのではないかと言わざるを得ないこの点、市長はどうお考えか、しかと御所見を承りたい。

それから、合同協議会の会長はどなたか、伺つておきます。

次に、前回お答えいただけなかったもののうちから、昭和四十五年以降逐年別の減反面積、これは前回逐年別にお答えいただいたんですが、その内容が伺えなかった。つまり、地区別の面積それから地区別に指導した作物、その成果の良否、その成果が上がったか、上らなかつたか。これを明確にしていたかどうかであります。前回も質問したので、十分用意ができてゐるはずでありますので、明確にお答えをいただきたい。

それから、昭和四十五年当時二百四十四ヘクタールの減反であるはずでありますのに、百六十二ヘクタールとお答えになられた誤差について御説明を承りたい。

次に、市内農家戸数は昭和四十五年には三千七百七十五戸でありました。昭和四十年には四千八百五十二戸あったのであります。昭和五十二年になりますと、どんな変化をみせたのでありましょうか。三千三百三十六戸に激減してゐるのであります。まさに市の農政の貧困のしからしむるところと断ぜざるを得ないといいたのであります。それはひとり館山市だけの責任とは言えず、国の政策との関連において分析しなければならぬことは論を待ちません。それにしても、市長の市農政に対する考え方は、現状のまま放置していいとお考えかどうか、伺います。

最後に、承ります。先ほど辻田議員に対して小さくても光り輝く内容を持つ市でありたいと答弁されました。私は思わずダイヤモンドと不規則発言したのであります。それはともかく、市長は市内農民に対して、あしたの農村は半沢にまかせてくれ。心配するな。光り輝くあすの農村をビー アンビシャス ファーマーと

いり（笑声）アピールを声を大にして訴えるおつもりはないかてあります。これを伺います。

市長の任期中の議会で当初予算を審議するのはこれが最後であります。したがって、私の通告質問もこれをもって終るわけですからいろいろと論議を交わしてまいりましたが、あるときは舌鋒鋭く迫ったこともありましたが、しかし、いずれも館山市政発展のため

〇議長（吉田勇治郎君） 石井議員に申し上げます。時間ですから。〇一四番（石井輝久君） いま、終ります。（笑声）

時間ですが、以上をもって終りますが、三年有半のあなたの市政に対して傾倒されてこられた御努力に敬意を表しつつ、以上をもって私の質問を終り、御答弁によりまして再質問いたします。

（市長半沢良一君登壇）

〇市長（半沢良一君） 石井議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第一点でございますが、これにつきましては施政方針において申し上げましたとおり、赤字財政も克服できましたので昭和五十三年度は健全財政を基調として地域環境づくり、教育施設の充実等残された任期を全力を傾注してまいることが私に課せられた使命であると考えます。

ビジョンというお話でございますが、大向こうをうならせるようなスローガンは持ち合わせておりません。やはり堅実に、着実に一歩一歩市政の進展を図ることだというふうに考えております。質問の中の二点でございますが、次期市長選出馬の意思でございますが、いまのところ決定をいたしておりません。これにつきましては、あくまでも私個人がこれを左右すべきではなく、市民

の皆さま方の御意思を十分体して、あくまでも慎重に検討いたした上で、決断をいたしたいと思っております。

小さな第三点、中村氏の後援会長の件でございますが、九月議会でも御答弁申し上げましたとおりでありまして、その後正式なお話は受けておりません。

小さな第四点、池田氏に対する態度でございますが、池田氏が立候補される以上、御当選することを心から願うものでございます。

小さな第五点、もし私が立候補いたします場合には所属党派でございますが、立候補の意思決定をいたしました時点で考えたいと思っております。

質問の大きな第二点でございますが、議案説明資料のとり、行政機構として市長直属の公室及び内部管理部門、住民サービス部門、事業部門の三部を設置して、公室長及び各部長には市の政策策定及び総合調整または実施計画に対する部内各課の調整を行わせ、各課長にはさらに住民に密着した行政サービスを行わせ、内部、外部のサービスの向上を図ることでありまして、

部課設置条例を廃止し、行政組織条例を制定することは、課を置かないということではなく、部の設置は条例規定事項であり、課の設置については規則により定めますので、いままでどおりの課を設置いたします。

なお、地方自治法第百五十八条第七項中、必要な部課とは、自治省行政実例によりますと、必要な部または課であり、部を設置した場合、課の設置は規則にゆだねられるという解釈でございます。

また、同項後段との兼ね合いですが、ちなみに千葉県下二十六市について申し上げますと、部を設置していないのは八日市場市、鴨川市、館山市の三市であり、部局数については千葉市の二局十七部を最高に、勝浦市の三部であります。人口五、六万の都市においては四ないし六部制が現況でございます。

また、給与表改定についてでございますが、その前に管理職手当の件で申し上げますと、支給に当たっては、支給対象とする管理または監督の地位にある職員の職務の特殊性に基づいてその割合を定める性格のものでございますので、一等級については現行どおり一〇％とし、特一等級については職務の責任度合いと県下各市の状況とを合わせ配慮しまして、県下最低の一・二％の支給を考えております。

また、給料表の改定でございますが、給料表の等級は部課、組織と対応し、その職務に応じたものであることが給料の根本的考え方でございますので、現行の行政職給料表の五等級制に特一等級を加え、実質六等級制にしようとするものでございます。

今回の改定は人事院勧告に基づく前回の改定とは、おのずから性格が違うものでございまして、朝令暮改とは考えておりません。大きな第三点、駅前再開発に対する熱意についてでございますが、商店の近代化につきましては、先ほども辻田議員にお答えをいたしましたとおりでございますが、直接経営者の皆さん方が自分自身の問題として取り組む以上、大型店対策等十分考えた上での計画になると確信いたしておりますし、そういうふうに期待しているわけでございます。

駅前再開発の問題につきましては、長期的展望に立った御提言

でございますけれども、やはりこうした計画や実施は、地元商店街の方々の盛り上りが最も大切な要素となりますので、そのようなムードづくりとともに、今後検討課題といたしたいと考えているわけでございます。

都市再開発法に基づいて公権力によって強引に開発を進めようという御意見でございますけれども、私もいままではいろいろな駅前再開発の事例を見てまいりました。最近では、一番典型的なのが長野県の駒ヶ根市というところでございます。あそこにはいりまして十分検討いたしてまいりましたが、やはりその過程を見ますと、どうしても地元の商店街の方々の盛り上った熱意が行政を動かす、行政はその熱意にこたえていろいろな法律、制度等を利用して再開発が行われている実情でございます。

地方自治体が行う場合もあるし、あるいは組合等が行う場合もございますが、それは開発の形式の問題でありまして、基本的には地域の方々の熱意が根本になっている。それが無い場合には不成功に終わっている場合が多いでございます。そういうことで公権力による開発ということは考えておりません。

自由経済に対する所見ということでございますが、お説のとおり、自由経済はあくまで秩序ある公正のルールの中で、公正な競争でなければならぬというふうに考えております。したがって御指摘のような自由放任主義はすでに過去のものでありまして、いかに激しい経済動向の中にあっても、自由経済の本質というのは、やはり秩序を守っていくことであると、そのことは今後においても必要で不可欠のものであると認識をいたしております。

大きな第四点は、市農政なかんずく米の生産調整ということで

ございますが、この御質問、生産調整につきましては、すでに渡辺議員、辻田議員にもお答えをいたしましたとおりでございますが、どのような方法で末端農民に減反面積の割合や転作の指導をしたかということでございますが、これは農政審議会におきまして、どのような方法で配分するか審議した結果、算定方法としては水稻共済引き受け面積、農家台帳、固定資産課税台帳等を比較検討の結果、水稻の作付面積が確認できるものとして、水稻共済引き受け面積と圃場整備面積を基礎に算定することに決定をいたしました。

周知の方法は、市内八カ所で農業協力員会議を開催し、部落別個人別に仮配分の内示をいたし、部落内での転作目標、配分面積の調整を依頼し、現在に至っているわけでございます。その間に部落の要請によりまして、約五十の部落に係が出向いて説明をいたしているわけでございます。

なお、御質問の合同会議ということでございますが、これは農業委員会と農協の理事との合同会議でございます。特に会長というものはございません。

第二点の昭和四十五年以降逐年別の地区別の減反面積、指導した作物、成果等については大変細かい説明になりますので、主管課長から説明いたさめますので、御了承をいただきたいと存じます。

御質問の第三点の昭和四十五年当時の減反面積の相違につきましては、現在保管しております資料では百六十ヘクタールとなっております。御指摘の二百四十ヘクタールの根拠につきましては、調査をいたしました。判明をいたしませんので、御了承をい

ただきたいと思います。

第四点の今後の農政に対する考え方でございますが、おれについてこいというような大きなスローガンを掲げることは大変むずかしいでございます。日本の農政が現在きわめて厳しい転換期にきているわけでございまして、国自体明確にこうあるべきだという構想を打ち出しておりませんので、国の方向を見きわめながら今後の農業の振興にじみちに対処していききたい。そういうふうに考えているわけでございます。

農業振興地域の整備に関する法律に基づいて農業生産基盤を整備したり、農業経営の近代化を図るため圃場整備事業の促進を進める、その他後継者対策に努力し、経営の安定を図っていききたい、そんなふうに考えております。

また、農業の永続的発展の基礎となるものに土づくりというところが大変重要になってまいります。したがって、有機質の還元と有効利用について、今後酪農と耕種農家が連携して地域の向上を図るように推進してまいりたいと考えているわけでございます。

そのほかに、村づくり対策といたしまして、すべての農家の参加による農政を進めていきたい。そんなふうに考えているわけでございます。着実に、堅実に一步一步農政の振興、農業の振興を図っていききたい。そんなふうに考えているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○農水産課長（佐野甲子郎君） ただいま、市長の説明のありました第二点の昭和四十五年以降逐年別、地区別の減反面積を申し上げます。年度別に、地区別に申し上げます。

昭和四十五年、館山北条地区二十三ヘクタール、那古船形地区

十三・八ヘクタール、西岬地区二十二・四ヘクタール、神戸地区二十ヘクタール、豊房地区十八・七ヘクタール、館野地区四十三・八ヘクタール、九重地区十三・八ヘクタール、合計百六十ヘクタールでございます。

次に、四十六年でございますが、館山北条地区が三十八・八ヘクタール、那古船形地区が三十二・八ヘクタール、

(「議長、発言中ですが」との声あり)

○議長(吉田勇治郎君) ちょっと待ってください。

○農水産課長(佐野甲子郎君) 西岬地区三十五・四ヘクタール、神戸地区三十二・七ヘクタール、豊房地区四十一ヘクタール、館野地区七十四・一ヘクタール、九重地区四十・二ヘクタール、合計二百九十五ヘクタールでございます。

次に、四十七年でございますが、館山北条地区三十九・九ヘクタール、那古船形地区三十六・六ヘクタール、西岬地区三十七・九ヘクタール、神戸地区三十四・九ヘクタール、豊房地区四十一・九ヘクタール、館野地区七十八・八ヘクタール、九重地区四十二ヘクタール、合計三百十二ヘクタール。

次に、四十八年でございますが、館山北条地区四十七・八ヘクタール、那古船形地区三十五・七ヘクタール、西岬地区四十四・八ヘクタール、神戸地区四十・八ヘクタール、豊房地区四十五・八ヘクタール、館野地区九十・二ヘクタール、九重地区四十四・九ヘクタール、合計三百五十ヘクタール。

次に、四十九年でございますが、館山北条地区十九・三ヘクタール、那古船形地区十八ヘクタール、西岬地区九ヘクタール、神戸地区十二・五ヘクタール、豊房地区十八・三ヘクタール、館野

地区三十三・五ヘクタール、九重地区三十九・四ヘクタール、合計百五十ヘクタール。

次に、五十年でございますが、館山北条地区八ヘクタール、那古船形地区三十七・六ヘクタール、西岬地区九・八ヘクタール、神戸地区十二・二ヘクタール、豊房地区十四・五ヘクタール、館野地区二十六・三ヘクタール、九重地区四十五・三ヘクタール、合計百五十三ヘクタールでございます。

次に、五十一年でございますが、館山北条地区五・二ヘクタール、那古船形地区十六・六ヘクタール、西岬地区七・六ヘクタール、神戸地区十一・七ヘクタール、豊房地区十四・四ヘクタール、館野地区二十三・一ヘクタール、九重地区二十四・四ヘクタール、合計百三ヘクタールでございます。

次に、五十二年でございますが、館山北条地区七・一ヘクタール、那古船形地区十七・八ヘクタール、西岬地区八ヘクタール、神戸地区十一・四ヘクタール、豊房地区十二・五ヘクタール、館野地区二十三・二ヘクタール、九重地区二十三・四ヘクタール、合計百三・四ヘクタール、以上でございます。

続いて、重点作物につきましては、飼料作物と野菜と花卉でございますまして、効果につきましては、飼料の需給率の向上を図るといふようなことでございます。

○一四番(石井輝久君) 再質問いたします。最初から御答弁いただいた順序を追って再質問をいたします。

第一点でございますが、最終年度に臨む市長の、私はもろもろの政策の中から一つ抽出して市民にアピールするビジョンという質問でございましたが、なるほど市長はビジョンは持ち合わせ

ていないんだという御説明でございます。先ほど、先般いたいただいた施政観を抽出したものの、環境整備とか、教育云々ということだけお述べになって、大向こうをうならせるビジョンは持ち合わせてないんだという御答弁承って、まことに正直で結構だと思えます。しかも、着実、堅実にいうことでですから、市長さんの日頃のお心がけ、お人柄がこの答弁ににじみ出ているものと思つてビジョンは全く欠如しておると承って、この点は打ち切ります。

市長選への出馬でございます。各市いろいろ質問がございます。私どもも勉強しておりますが、市長によってはこちらんほうん議会答弁しております。当市におきましてはいまだ決定していない。私個人ではなくて、市民のいろいろの意思を十分そんたくして慎重に決定したいという趣旨の御答弁でございますが、これまたそのとおりでございます。まだ数カ月でございますから、そうしてその間市政に打ち込んでいかれるという御所信でございますから、この点も了承いたしまして打ち切ります。

次の質問でございますが、昨年の九月でちょっと私も触れましたけれども、あのときの触れ方と今回の触れ方はだいぶ違つておるんですが、中村正三郎氏の後援会長を受けるのか、受けないのか。いまだ正式の話がないということで打ち切りますが、打ち切りません。もう機は熟しています。すでに先般もどっかで会合をやられたというのを聞いております。昨年も聞いております。市長も出ています。そんなことをいっても、もし正式な話があったらどうしますか。これは打ち切りません。これはもう一べん伺います。(笑聲)

次に、池田 淳氏、水田さんの後継者をみずからうたっており

ますそうですが、私も安房郡出身の一人として、何か水田先輩の後継とはどうしても受け取れないけれども、しかし先ほど触れましたように、市長は酒造業の同業者のよしみをもってどうされるか、私はきわめて注目しております。市民もそうなんです。話題になっております。ですから伺いました。

そうしたら、当選を心からお祈りする。(笑聲) 要は、おやりになるのか、ならないのか。まさか吉浦忠治さんをやってくださいとか、千葉千代世さんをどうかという質問じゃないわけです。

同業者のよしみであり、水田さんの後継をみずからうたっている。かつての後援会はどこそこにあつたという話もある。そういう中で、半沢市長さんは一体どうされるのか。これは市長選との兼ね合いもあります。それを伺ったわけですが、当選を心からお祈りする。やるのか、やらないのかわかりませんが、この点は御心境をもう一べん承ります。

次の質問ですが、自民党の所属でお立ちになるのかどうかということですが、市長選出馬する時点で考えるということ。それはそのとおりでしょう。これ以上は伺いません。この点は質問を打ち切ります。

次の質問でございますが、行政機構の簡素化で私は通告申し上げたことと、先ほど質疑の間でちょっと変えたんですが、要するに簡素化ではなくて混迷化、複雑化していくんじゃないかということ。昨日通告したのと若干変わったのでちょっと御注意申し上げます。おつたんですが、昨日のままだなとかの答弁をお説みになつたと思いますが、私が先ほど聞きましたのは、簡素化ではなくて混迷化、複雑化を来すような感じだけれども、御所信を承りたい



ということをごさいますして、この点はもう一べんお答えをいただきたいと思ひます。

それから、行政機構の条例については、また別の機会に先ほども申し上げました詰めた質問をいたしたいと思ひますが、ですから、そう触れませんが、法律の解釈ですが、他の市町村との権衡云々ということがございます。鶴川のを手元に持つておいて先ほどから見えておるんですが、要するに鶴川は部制を敷いていて、ゆんどうくさいから部制をやめてまた課制に返った。しかも条例はやはり部課設置条例ではなくて、館山市と同じ行政組織条例です。条例の名称については云々いたしません。要するに一室三部よろしゅうございます。しかし、課がそこに併置されていらないということ、これは重大な問題だ。なぜ重大かというところ、これは条例に併置されて明記されていないと、規則、規程であった場合には市町村長の権限に属する事項として、規程あるいは規則の場合には十分にきとくとか、三つに課を減らせとか自由自在にできる。ですから、地方自治法の素直のためえとして部と課を併記して一本の条例にするという、これが条例の趣旨でなければならぬ。法律の趣旨でなければならぬ。素直に解釈してそうだと思ひます。

皆さま方は御研究なさっているのはよく承つてます。しかし、県の地方課では特段の指導をしてないといっています。行政実例等がございます。しかし、部の分課というのは、答弁がないので私の方から分課という言葉を使つてはちよつとまずいんですが、室とか、部があつて、行政実例は、たとえば館山市の千葉事務所とか、東京事務所とかいうようなものが存在した場合に、それが

市長公室の分室である場合もある。こういうときに条例で定めなくてもいい。こういうことであつて、部または課というものは条例に併記していいんです。私はそう思つておりますが、この点についてはまた別に議案の審議のときにいたしますが、ちよつとその点に關する、私けそう思つておりますが、その点に關する御所見を承りたい。

先ほども申し上げましたように、これは簡素化ではなくて、複雑化になつておる。先ほどの答弁の中にもありました課はそのまゝ、いまは鳩山莊を含めて十四でございましょうか、十四はそのまゝ、しかも条例でうたわすに規則、この改廃は市長の自由、そうして条例では一室三部しかない。今度くつていくと規則で十四課それは全く同じ。しかも、その人たちには管理職手当をやる。特一等級を設ける。その人には一二をやる。これは複雑化でなくして何でございましょうか。これは再質問として質問いたします。それから、先ほど、なるほど昨年十二月に私どもが条例改正で別表昨年度やりました。確かに給与改定の条例でございす。条例でございすけれども、一等級の一号から二十五号まで、三十一万八千六百円まである。この一等級の中の運用で、特一を設けなくても運用で当然やれるわけです。現に県は一等級で部長も、支庁長も、支庁長の中には二等級もありす。一等級もありす。それは等級の一等級何号で調整もつてしてゐるんです。特一等級なんて設けてやしません。これはまさに屋上屋、機構の簡素化ではなくて複雑化、混迷化これはもう私がいうまでもなく、市民でも聞けばよくわかると思ひますよ。この点もう一べん市民にわかるように御説明をいただきたいと思ひます。

しかも、もう一点、いままでも管理職手当は百分の十でした。第一等というか、一室三部を設けるために百分の十五の範囲内という規定に改めるわけです。これは現下の厳しい昭和五十三年度経済状況の中にあるという市長の御説明で、大した額じゃないですよ。ある面ではスズメの涙かもしれない。しかし考えてみれば、これは乏しい市の財源の中の、スズメの涙であっても市民の血税の結晶だと思ふんです。なにも管理職手当を上げるのに反対しているわけではないんですよ。

私は、この厳しい情勢の中で、おいそがしい部課長さん方、管理職手当出していっぱい働いていただくのは結構ですけれども、しかしながら、市長の施政方針でもあるんですから、五十三年度もまた厳しい経済情勢続くんだと、だから、その中から市長は選択をしていくんだ。その選択が管理職手当の増額支給ということであって、まことに大きな何か割り切れないものがある。その点に対するお答えをもう一べんいただきたい。恐縮ですが、自余のものは一応別の機会に譲って質問を打ち切ります。

それから、駅前再開発でございますが、市長さんの当初のあれでビジョンの持ち合わせがないというお言葉でございますから、しかも駅前再開発、法律に基づく駅前再開発という点については、着実に地元の盛り上りを待ってやりたいという考え方、先ほどの堅実、着実という市長さんのお人柄ですから、これは結構でございます。

御答弁の中に、私が強引に進めよというけれども、私が強引に進めよというのをいっていただくけれども、そういう意味でもないんです。私は別に駅前に住んでるわけではない。ただ駅前の

再開発アーケードでもやってそうして近代化して、体質を改善して、それでやればジャスコぐらいきたって何とかなるなという感じは持っている。確信として持っている。しかし個々の人たちが、名前をあげませんが、あの個々の人たちが英知をしぼって銀行から借入金で店を改善して近代化しても、隣は依然として古い形態の魚屋さん、あちらは八百屋さんというようになことでも困る。

要するに、駅前再開発というのは、公権力といいますか、その言葉がまずければ、いけないとするならば、組合をつくってやるとか、とにかくそういう方法でいっぱいやってるんです。

先ほど、市長さんは例を挙げて、うまくいってない例をたまたま挙げたでしょうけれども、よくいって例もあるでしょう。これはとにかく市長はそういったビジョンを持ち合わせてないからという、これ以上の質問のしようがないから、しかし私けそう考えますので、将来の問題として館山市民のために前向きに御検討いただければ幸いだと思います。この点に関する御所見どうか、もう一べん承りたいと存じます。

それから、米の減反に移りますが、昨日通告したのと若干変わってきておる。それは先ほど辻田議員と渡辺軍治郎議員の質問があったから私は省いて、私けどういうふうに変えたかといいますと、同じ農民と同じく汗して、同じく苦しみ、そうして農民の痛みを、痛苦を自分の痛苦として感ずる市の行政が、農政が欠けているからいけなからうかという御質問に変えたのでございます。

この点に対する御答弁をただけなかったんで、ほかのきのうのままの御説明があったようですが、やっぱり市の農政において本当に農民の苦しみ、それから痛みそういうものに立っての農政が

なければいけないと思うんですよ。

年々歳々農家人口が減ってるんです。高等学校出ればみんなどこかに行っちゃうんですよ。それをリターンさせて魅力ある農村にさせるために、おれは市長だ、あしたの農村を信じておれについてこい。こういうビジョンでなくてもいい、言葉をかえるならば気構えでもよろしゅうございますが、そういうものがほしいなという私の悲願、願いをこめた発言でございます。

おれはそんなものは、ビジョンがないんだから、堅実に、着実にやっていくよ。あしたの農村は死にゃいます。死ぬという言葉はあれですけども、衰退の一途をたどっていきます。ですから、ちょっとこの点に関する御所見を承りたいのでございます。

それから、かつて四十五年にやりましたのは、市長が生産調整協議会の会長になってやりました。今回合同協議会というのをつくった。会長がないというお答えでしたが、会長がない協議会でどうやって運営していくのか、ちょっと疑問ですけども、その点再度お答えをいただきたいと思えます。なければならぬしゅうございます。また別の角度から私は考えなければいけないと思えます。

それから、次の逐年別の御説明でございますが、せんだっての議会で書いてありますが、逐年別の計数はさあっと承りました。その内容を承ってなかった。だから今度は逐年別に、地区別に計数だけは、面積だけは書いてありますが、しかし、どういう作付の指導をしたかというのは御説明がないわけです。これを私は求めているわけです。その結果のよかったのか、悪かったのかということを求めているんです。

なぜ求めるかという点、これから指導を市はやっていくわけなんです。過去の轍を踏むなという言葉があります。過去の轍を踏んではならない。失敗の例を踏んではいけないんです。

かつて、ドジョウをやりました。ニシキゴイをやりました。皆滅びです。そういう失敗を繰り返してはいけません。だから、どういう指導を過去にしたのか、それは成功したのか、成功すれば同じように指導すればいい。そのデーターを求めるから私は質問をしているんです。今回も内容が全く皆無、これではせっかく御答弁をいただいても、皆さん書くのはおっくうでしゅう数字書くには。内容がなくては何にもならない。これでは答弁になっていないと思えます。この点は今一べん御調査の上、しかるべき機会に早急にお答えをいただきたいと思えます。

それから、先ほど昭和五十年に百六十ヘクタールになっているけれども、いくらひっくり返して調査してもデーターが出てこない。だから御了承いただきたいという御答弁でございますが、昭和四十五年の三月九日の当議場本会議で当局側の答弁の中に、こういうような御答弁が会議録にございます。これは農産課長の答弁でございます。私の質問に対する答弁です。「国が百万トンの減産を目標に県から各市町村に対しまして、その協力方の要請があったわけでございますが、館山市といましては、目標のトン数が九百五十一トンでございます。それで面積にいたしまして二百四十四ヘクタールでございますが、この調整につきましては、米の生産調整推進協議会が大体の目標を立てまして」云々という御説明でございます。それがいつの間にか百六十ヘクタールという、ひっくり返しても全くない。奇々怪々でございます。しかし

これはなければならぬ、過去のこととごさいますからしょうがないですけれども、百六十ヘクタールと二百四十四ヘクタールではだいぶ違いがあります。

それで、私は善意をもってこういうふうに援助する質問をいたしますよ。当初二百四十四ヘクタール割り当てをくったけれどもそのときは本間市長が推進協議会の会長だった。彼は百姓の出身ですよ。そんなものは負えないぞ、とんでもない話だ。二百四十四受けられないぞ。それで百六十ヘクタールに減ったかもしれない。私はこのように好意的に農民の立場に立って、当時の本間市長が体を張って農民のために数字を減らしたと、このような理解をしたいわけなんです。しかし、とにかくひっくり返しても二百四十四のあれが出てこない。しかし、速記録にちゃんと明記してあるんです。まさか、それ以上、そういうわけでございます。

(笑声)

もうちょっと市の、農民のために温かい配慮これがほしいですよ。戦争中のあの苛斂誅求に耐えてきた農民、それから先ほどもいいましたミカンを植える、植えた、売れなくなっちゃう。桑を植える、桑をようやく育てるようになったら、切ってサツマイモだ。まるきりぐらぐらとゆれる農政のために農民は泣いていますよ。魅力なくなっちゃう。だから学校を出たって農民なんかなりはしません。これをどうするかというのは、館山市の少なくとも一つの命題でなければならぬと思いますが、以上申し上げて、再答弁をお願いします。

○市長(半沢良一君) 中村氏の後援会長の件と池田氏の件とごさいます、どうもあまりにも個人的なことで、どうも本会議の答

弁、できれば御容赦をいただきたいと思います、どうしてもだめだとおっしゃるならば、先ほどの御答弁以外に答弁の仕方がございませぬ。

それから、機構改革の問題でございますが、先ほど機構改革によって市民が混迷をしてしまって、何が何だかわからないという御質問がございましたので、いや、部をつくるけれども、課をやはり置くんだ。ただ部をつくるについては、それは条例でやる。課は規則でやるから。これは自治省の行政実例によってそういう規定になっているというふうに解釈をいたしますので、条例規定で部を今回直す。課の設置については規則によってやるんだから、いままでどおり置きますという意味で申し上げます。でありますから、市民が何が何だかわからないということはないだろうと、また複雑化もしないというように御答弁申し上げたつもりでございます。

それから、管理職手当の件がございました。一〇%、部長につきましては一二%にいたしたい。こういう説明をいたしたわけでございますが、確かにこの点については給料が上昇いたしますけれども、私は就任以来少数精鋭主義でいかなければならないというところで、この四年間で六十名近い人を減らしてまいりました。少数精鋭主義でやるということは、同時にまたそれだけの仕事をするのでありますから、むしろ待遇をよくしなければいけない。簡単に言えば、人数を半分に減らしたら、給料を倍にしてもいいではないかという、そういう冗談もいっているわけでございますが、やはり責任もふえますし、仕事もふえるわけでございますので、増額をいたしたい。それは決して市の財政状況を無視してい

るわけではございません。人を減らした分だけでも大幅な人件費の減になっておりますので、この程度の増は決して市の財政を考へない措置ではないと考えます。

それから、農業に対して農民とともに苦しみということですが、大変ごもっともでございます。市の行政すべてが市民とともに苦しみ、市民とともに喜ぶんだ。そういう心構えでやっているつもりでございます。

以上、私に対する答弁だけ終わります。

○農水産課長（佐野甲子郎君） 先ほどの農業委員と農協理事との合同協議会ということでございますが、合同でやりました関係で座長として農業委員会の会長さんが座長となりまして会を運営したもので、その場だけの協議会でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午後四時五十二分 休 憩

午後四時五十五分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○一四番（石井輝久君） もう三分でございますから、残り時間がありませんから、市長個人にわたるあれですからということで、と私も銘打ちましたけれども、そういう質問はこれで打ち切ります。

それからあと、等級とか、複雑化という問題もまた改めて議案の審議のときに、また改めて自治法あるいは条例等の関係をもう一べん質問してみたいと存じます。ですから、今回これで打ち切ります。

生産調整でございますが、再答弁で市長から農民の立場にとい

うことでございましたので、この点は了承いたしますが、しかしとにかく本会議の席上トン数まで示した。二百四十四ヘクタールと明らかに議会答弁があったにもかかわらず、そのあれはどっかにいっちゃって全くわからないから了承してもらいたいと、了承してもらいたいと言えば了承せざるを得ませんけれども、役所のことですからしつかり、しかも農民のことですからしつかりやっていたきたいということを切に、農民の立場に立って切に要望いたしましたので、今回の質問は終わります。

### 発言の取り消し

○議長（吉田勇治郎君） 一四番議員さんに申し上げますが、いま生臭いという言葉は、ちょっと取り消していただきたいと思いたすが、それだけ。

○一四番（石井輝久君）、これは通告質問の本文でも生臭いという言葉を使っておりますけれども、ちょっと魚屋のような感じがしますから、この二字だけ取り消します。

○議長（吉田勇治郎君） 取り消すことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、取り消しと決定いたしました。

以上で、通告者による一般質問を終わります。

### 会議日程の変更

○議長（吉田勇治郎君） この際、会議日程についてお諮りいたします。

明九日の会議日程は本日に引き続き行政一般質問となっておりますが、本日終了いたしましたので、明九日は休会といたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、明九日の会議日程は変更され、休会と決定されました。

散 会 午後四時五十八分散会

○議長(吉田勇治郎君) 本日の会議はこれにて散会とします。

なお、明三月九日から十二日まで議案調査のため休会、議案質疑通告の締め切りは十一日正午まででありますので、念のため申し上げます。

次会は、三月十三日午前十時開会とし、その議事は各議案の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

一、提案理由の追加説明・議案の訂正

二、行政一般通告質問

三、発言の取り消し

四、会議日程の変更

